平成 23 年度

第 7 回新居浜工業高等専門学校

運営諮問会議　報告書

平成 24 年 3 月

独立行政法人国立高等専門学校機構

新居浜工業高等専門学校

目　　次

はじめに

Ⅰ．新居浜工業高等専門学校運営諮問会議

１．　運営諮問会議日程表　・・・・・・・・・・・・・・1

２．　運営諮問会議委員名簿　・・・・・・・・・・・・・2

３．　学校関係出席者　・・・・・・・・・・・・・・・3

４．　規程　・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅱ．運営諮問会議資料

１．最近の主要動向の報告　・・・・・・・・・・・・・5

２．議事

１）入学者の確保・教育課程の編成（資料）　・・・・・・7

２）学生支援・生活支援（資料）　・・・・・・・・・・１０

３）学寮運営（資料）　・・・・・・・・・・・・・・１４

４）議事概要①　・・・・・・・・・・・・・・・１６

５）教育の質の向上と改善・国際交流　・・・・・・・・・２６

６）研究及び社会連携活動（資料）　・・・・・・・・・・２９

６）優れた教員の確保・管理運営・業務改善等（資料）　・３１

７）新居浜高専創立 50 周年記念事業（資料）　・・・・・３３

８）議事概要②　・・・・・・・・・・・・・・・３４

Ⅲ．平成 23 年度・年度計画　・・・・・・・・・・・・・４６

は　じ　め　に

昭和 37 年に高専制度の第 1 期校として創立された新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、平成 16 年 4 月に全国 55 の国立高専と共に、1 つの国立高等専門学校機構として法人化され、新しい 1 歩を踏み出しました。これにともない､平成 13 年度から設置していた外部評価委員会を衣替えして、運営諮問会議という形で外部の有識者の皆様から本校の運営について様々なご意見を伺っております。本会議は、原則として毎年度 1 回開催しており、今回が 7 回目の開催となります。

現在、高専機構は第 2 期の中期目標・中期計画の 3 年目にさしかかり、重点課題として、危機管理体制の整備、入学志願者の確保、各高専の個性化・高度化の推進、産官学連携の推進、国際交流の推進、教職員の業務の繁忙への対応などに鋭意取り組んでおります。本校におきましても、機構本部策定の各年度計画に基づき、それぞれの年度ごとに本校独自の計画を策定し、その計画を達成するための措置や方策を考え、達成状況を確認しております。

今回の運営諮問会議では、本校の年度計画に主点を置き議題を設定しました。本校が独自に取り組んでいる教育・研究環境の整備や改善、社会貢献、国際交流事業等を報告し、委員の方々から、忌憚のない意見・提言・評価・助言をいただきました。

委員の方々からいただいた意見や提言等は、本校の今後のさらなる発展、改革、改善に役立てていく所存です。

最後に、ご多用中にもかかわらず本校までご足労いただいた運営諮問会議委員の皆様に心から厚く御礼申し上げるとともに、本校に対して今後とも変わらぬご支援・ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

平成２４年３月

新居浜工業高等専門学校
校　長　　鈴木　幸一

運営諮問会議日程表

１　　日　時　　平成２４年1月１９日（木）１４：００～１６：３０

２　　場　所　　第一会議室

３　　日　程

時　刻 (予定)	次　　第
１４：００	委員紹介 本校教職員紹介 会長及び副会長選出 校長挨拶及び最近の主要動向の報告 議題 １．入学者の確保、教育課程の編成・・・・・・・・教務主事 ２．学生支援、生活支援　　・・・・・・・・学生主事 ３．学寮運営　　・・・・・・・・寮務主事 （質疑応答及び意見交換） （休憩） ４．教育の質の向上と改善、国際交流・・・・・・・教務主事 ５．研究及び社会連携活動　　・・・・・・高技センター長 ６．優れた教員の確保、管理運営、業務改善等・・・事務部長 ７．新居浜高専創立 50 周年記念事業　　・・・・・副校長 （質疑応答） 各委員総評 会長総評
１６：３０	運営諮問会議終了

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

氏　　名	現　　職	備考
小野　　幸男	新居浜商工会議所 会頭	
北山 慎一郎	住友化学株式会社　理事　基礎化学品研究所長	
佐々木　　龍	新居浜市長	欠席
渋谷　　雅之	国立大学法人徳島大学 名誉教授	
平田　　利實	ユースエンジニアリング株式会社　相談役	
藤原　寛夫	愛媛県小中学校長会副会長　今治市立西中学校長	
柳澤　　康信	国立大学法人愛媛大学長	

（五十音順・敬称略）

代理出席者

石川　　勝行	新居浜市　副市長	

（敬称略）

学内関係出席者

職　　名	氏　　名	備　　考
校　　長	鈴　木　幸　一	
教　務　主　事	西　谷　郁　夫	
学　生　主　事	安　藤　進　一	
寮　務　主　事	皆　本　佳　計	
副　　校　　長 （創立 50 周年記念事業担当）	谷　口　佳　文	
専　攻　科　長	新　田　敦　己	
高度技術教育研究センター長	中　山　　享	
学生相談室長	野　田　善　弘	
機械工学科・教授	豊　田　幸　裕	
電気情報工学科主任	山　田　正　史	
電子制御工学科主任	今　井　伸　明	
生物応用化学科主任	中　川　克　彦	
環境材料工学科主任	相　根　博　道	
数理科・教授	大　村　　泰	
一般教養科主任	塚　野　　修	
技　術　室　長	松　田　雄　二	
事　務　部　長	五　味　久　和	
総　務　課　長	地　藏　堂　　聡	
学　生　課　長	向　井　将　一	
総務課課長補佐	十　亀　　万　亀　子	
総務課専門員	西　原　　忍	

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成 17 年 2 月 8 日規程第 2 号

（設置）

第１条　新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，地域のニーズ及び時代の変化に即応し，効率的かつ効果的な学校運営を確保するため，運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　会議は次に掲げる事項について，校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

(1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。

(2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

（組織）

第３条　会議は，本校の教職員以外の者で，高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから，校長が選考した若干名の委員をもって組織する。

（任期）

第４条　委員の任期は２年とする。ただし，再任することを妨げない。

２　前項の規定にかかわらず，委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第５条　会議に会長及び副会長を置き，それぞれ委員が互選する。

２　会長は会議を招集し，その議長となる。

３　会長に事故あるときは，副会長がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第６条　議長が必要と認めたときは，委員以外の者に出席を求め，意見を聴くことができる。

（報告）

第７条　校長は，運営諮問会議での審議事項について，運営会議に報告するものとする。

（事務）

第８条　会議の事務は，総務課において行う。

（雑則）

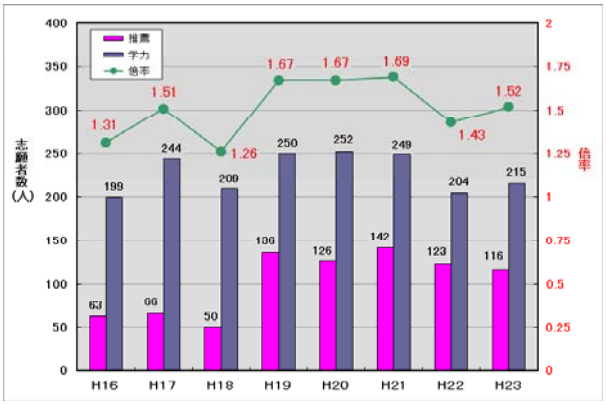
第９条　この規程に定めるもののほか，会議に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則

１　この規程は，平成 17 年２月８日から施行する。

２　新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成 13 年８月 29 日規程第８号）は，廃止する。

入試志願状況



○平成２３年度求人状況及び就職状況（本科）

平成２３年度求人状況　　平成２３年１２月末現在

学　科	求 人 数	就職希望者数(A)	求人倍率	内定者数(B)	内定率(B/A)
機械工学科	505	30	16. 8	30	100. 0 %
電気情報工学科	495	35	14. 1	29	82. 9 %
電子制御工学科	420	28	15. 0	23	82. 1 %
生物応用化学科	258	29	8. 9	29	100. 0 %
環境材料工学科	290	25	11. 6	22	88. 0 %
計	1,968	147	13. 4	133	90. 5 %

過去５年間の就職状況推移　　平成２３年１２月末現在（単位：％）

学　科	平成19年度 就職率	平成20年度 就職率	平成21年度 就職率	平成22年度 就職率	平成23年度 就職内定率
機械工学科	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
電気情報工学科	100.0	100.0	95.0	100.0	82.9
電子制御工学科	100.0	96.3	91.0	100.0	82.1
生物応用化学科	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
環境材料工学科	100.0	100.0	100.0	100.0	88.0
計	100.0	99.3	97.2	100.0	90.5

○平成２３年度求人状況及び就職状況（専攻科）

平成２３年度求人状況　　平成２３年１２月末現在

専　攻	求 人 数	就職希望者数(A)	求人倍率	内定者数(B)	内定率(B/A)
生産工学専攻	324	10	32. 4	10	100. 0 %
生物応用化学専攻	164	5	32. 8	5	100. 0 %
電子工学専攻	301	7	43. 0	7	100. 0 %
計	789	22	35. 9	22	100. 0 %

過去５年間の就職状況推移　　平成２３年１２月末現在（単位：％）

専　攻	平成19年度 就職率	平成20年度 就職率	平成21年度 就職率	平成22年度 就職率	平成23年度 就職内定率
生産工学専攻	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
生物応用化学専攻	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
電子工学専攻	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

平成２３年度　主な就職内定先と進学予定先

（平成２３年１２月末現在）

	主な就職内定先	進学予定先
本 科	旭化成(株)　出光興産(株) 愛媛小林製薬(株)　(株)NTTネオメイト 花王(株)　関西電力(株)　京セラ(株) 四国計測工業(株)　四国電力(株) 四国明治乳業(株)　(株)住化分析センター 住友金属鉱山(株)　住友化学(株) 第一工業製薬(株)　大鵬薬品工業(株) 中国電力(株)　不二製油(株)　富士通(株) 富士電機(株)　本田技研工業(株) 日本放送協会　マルホ発條工業(株) マツダ(株)　三菱電機(株)　村田機械(株)	新居浜高専専攻科 豊橋技術科学大学 長岡技術科学大学 千葉大学　電気通信大学 筑波大学　岐阜大学 岡山大学　島根大学 徳島大学　愛媛大学 佐賀大学　九州工業大学
専攻科	旭化成(株)　(株)イシダ　川崎重工業(株) 四変テック(株)　住友金属鉱山(株) 太陽石油(株)　中外製薬工業(株) 西日本旅客鉄道(株)　日本原子力発電(株) 富士ダイス(株)　富士重工業(株) リンテック(株)　レクザム(株)	京都大学大学院

地域連携の推進

● 地域連携活動の「基盤」づくり

新居浜高専技術振興協力会“愛テクフォーラム”の結成

地域社会・産業界との連携・交流を積極的に推進し、地域産業の発展など地域振興に寄与するとともに、新居浜高専の教育振興を図ることを目的とする。
平成１７年７月７日設立
会員：企業・試験研究機関・自治体・経済団体・卒業生・学生

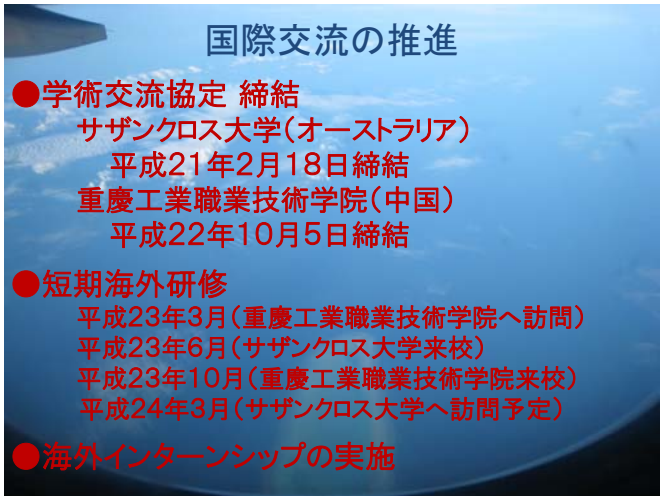
● 地域連携による独創的研究、応用開発研究の展開

共同研究等に特化した研究施設の実現
インキュベーション・ラボの新設（高度技術教育研究センター別館改修）

● 「産学官」連携による研究開発

えひめ東予シップリサイクル研究会の設立

産学官連携の組織による、安全でクリーンな世界標準となりうる船舶解撤システムを構築すること、及び我が国の鉄資源の確保・新産業の創出による国際競争力の向上、活力ある地域経済の発展など公益の増進に寄与することを目的とする。



ご意見箱の設置

ご意見箱設置(平成22年7月16日)

新居浜高専ホームページに

学校運営等へのご意見、ご要望を受付けています

新居浜工業高等専門学校は、学生及び保護者の皆様から本校の学校運営等に関するご意見、ご要望をお聞きし、改善に活かしていきたいと考えております。
皆様からの率直なご意見、ご要望をお待ちしております。

新居浜工業高等専門学校創立50周年
記念行事・事業(予定)

(1)記念行事

平成23年度
- ○記念講演会(平成23年12月10日実施済) 於 新居浜工業高等専門学校

平成24年度
- ○記念式典(平成24年4月21日) 於 新居浜市市民文化センター
  - ・記念講演会 講師:喜多川 泰 氏 (作家/学習塾「聡明舎」代表)
  - ・学生企画イベント
  - ・同窓会企画イベント
- ○あかがね工業博2012
  平成24年10月6日(土)~7日(日) 10:00~16:00
- ○ホームカミングデイ(国領祭)
- ○ものづくりコンテスト(市内小中学生対象)

(2)記念事業
- ○募金事業
- ○50年誌編纂
- ○校内緑地整備
- ○クラブハウス(部室)整備
- ○教育研究及び国際交流基金創設
- ○看板設置(平成23年3月本校専攻科棟に設置済)

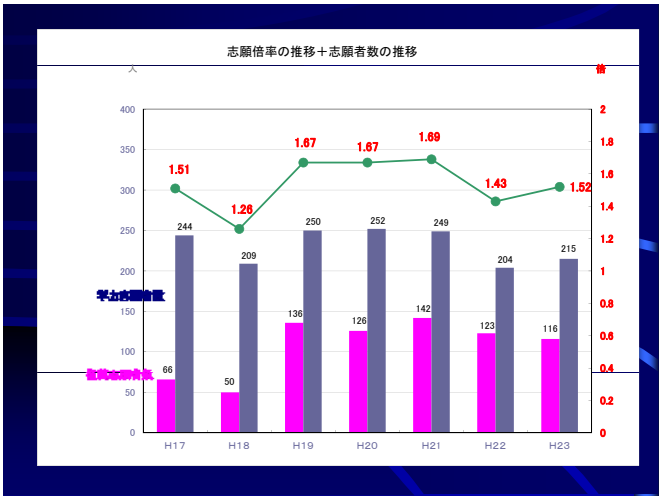
入学者の確保、教育課程の編成

教務主事　西谷　郁夫

平成23年度運営諮問会議（H24．1．19）

入学者の確保についての平成23年度新居浜高専年度計画

1. 広報推進本部が中心となり、入学志願者数が前年度を上回るように、効果的な広報活動を行う。
2. 昨年度見直した入試方法について、その成果の分析を継続して行う。
3. 女子学生の就職先企業の新規開拓に努める。



1．平成23年度入試広報状況（資料1）

広報推進本部（H19年度設置）

(1) 入試広報担当
(2) イベント担当
(3) 広報誌編集企画担当
(4) ホームページ運営担当
(5) メールマガジン担当

(1) 入試広報担当

入試広報担当が中学校との窓口となり、教員が中学校訪問、進路説明会を分担して実施

- 中学校訪問
  1回目：6月上旬～7月上旬　訪問校125校
  進路指導主事、3年学年主任等と面会し、本校の概要の説明、および中学校からの情報収集
  2回目：11月中旬～12月中旬　訪問校68校
  学生募集要項を持参し募集内容の説明、受験希望者の情報を収集
- 進路説明会への講師派遣　6月上旬～11月下旬、派遣校：44校
  中学3年生と保護者を対象に、本校の特色、入試内容等を15分程度で説明
- 校長会理事校への挨拶回り 5月
  新規理事校　9校、校長が交代した理事校　1校へ、校長、副校長が訪問
- 地区別学校説明会 6月上旬～中旬
  東予地区 24校、徳島三好地区 9校、西讃地区 1校、今治地区 7校

(2) イベント担当

- 夏季体験学習（7月29、30日 本校）
  中学生を対象に、本校の施設や装置を使ってものづくりや実験を体験してもらう。
  参加者：699人、保護者及び引率教員　169人
- ものづくりフェスタ in 松山（8月5、6日　愛媛大学城北キャンパス）
  小中学生と保護者に、「科学の不思議」や「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうとともに、新居浜高専を紹介する。
  参加者：小中学生　88人、保護者　28人
- 学校見学会（9月10日 本校）
  中学生と保護者に、各学科の施設・設備、学生福利厚生施設、学寮等を見学してもらう。
  参加者：中学生　241人、保護者　93人、教員19人

・入試情報コーナーの開設

国領祭（文化祭）時に、入試情報コーナーを開設し、受験相談、展示、DVD上映、入試問題解説、学科別ミニ見学会を行った。
参加者： 中学生 161人、保護者他 127人

・他機関主催のイベントへの参加

〇春は子ども天国事業
主催：新居浜市観光協会
〇にいはま駅フェス
主催：新居浜駅開業90周年・駅前交通広場完成記念行事実行委員会
〇よんでんグループ科学体験フェスタ
主催：四国電力
〇翠波高原コスモスまつり2011
主催：四国中央市観光交流課、コスモス感謝祭実行委員会
〇別子銅山から紐解く地域交流パネル展
主催：愛媛県
他 5件

夏季体験学習

機械工学科

電子制御工学科

生物応用化学科

電気情報工学科

環境材料工学科

ものづくりフェスタ in 松山

国領祭での入試広報活動

・当日は施設見学会、受験相談コーナー、
入試問題解説コーナーを用意する。

(3) 広報誌編集企画担当

- 「はばたけ！未来へ 2012」の作成 21000部
  新入生にアンケートを実施し、意見・要望を反映
- 本科学生募集ポスター（カレンダー付き）の作成 1100部
- 入試広報用クリアホルダーの作成 2000枚
- 新居浜高専説明用CDの作成 50枚
- CATV用CMの作成
  入試日程等の紹介CMを作成し、10月～12月にかけて、CATVで放送
- 平成24年度広報カレンダー（下敷仕様）の作成 20000枚
  県内外の中学2年生に配布

など

平成24年度カレンダー

愛媛県の全中学校と香川、徳島、高知、岡山、広島県の一部の中学校に送付

(4) ホームページ運営担当
・ホームページを随時更新

(5) メールマガジン担当
・月１回メールマガジンを配信

(6) その他
・在校生からのメッセージの送付
新入生全員の出身中学校に、近況報告として学生のメッセージと写真を送付

2. 昨年度見直した入試方法について、その成果の分析を継続して行う。

入試（学力）成績と内申点の合計により合格者を決めているが、昨年度からその重みを1:1に変更した。入学後の定期試験点、欠点者数等の変化を調査中である。

3. 女子学生の就職先企業の新規開拓に努める。

校長、事務部長による企業訪問や学科での企業訪問の際、女子学生の就職について依頼や調査を行っている。また、女子学生の採用について、企業側の意見を聴取している。

教育課程の編成についての平成23年度新居浜高専年度計画

1. 社会の状況変化や地域性を考慮しながら、本校の将来構想を考える。
2. 全国高専学習到達度試験、TOEIC等の受験結果を、学力向上と教員のFDに役立てる。
3. 勉学アンケート、授業アンケート等を継続し、分析結果を、学生、教員にフィードバックする。
4. 高専機構主催のコンテスト、その他のコンテストにできる限り参加する。

1. 社会の状況変化や地域性を考慮しながら、本校の将来構想を考える。

学校改革推進室の下に平成23年度から将来計画検討WGを設置し検討を始めた。

- 英語力教科対策分科会
  TOEICの成績分析等を通じて、英語学力の向上策を検討する。
- 本科の志願倍率1.8倍対策分科会
  広報の方法、社会貢献等、様々な方策により志願者倍率向上を目指す。
- 専攻科の充実検討分科会
  生産工学専攻の2コースの分割など。
- 施設充実分科会
  専攻科南の駐車場の利用方法など。

2. 全国高専学習到達度試験、TOEIC等の受験結果を、学力向上と教員のFDに役立てる。（資料2）

・第2回教員会 5/24(火)
全国高専学習到達度試験(数学)の結果について
・第3回教員会 6/21(火)
全国高専学習到達度試験(物理)の結果について
・科目間調整連絡会（数学、物理） 9/16(金)
・科目間調整連絡会（英語） 9/22(木)

3. 勉学アンケート、授業アンケート等を継続し、分析結果を、学生、教員にフィードバックする。（資料3）
4. 高専機構主催のコンテスト、その他のコンテストにできる限り参加する。

学生支援・生活支援

（キャリア教育 及び 教科外学生活動報告）

（平成23年度）

5月

学外研修（1年生）

- 1年生

【実施日】 平成23年5月20日（金）～21日（土）
【場　所】 国立大洲青少年交流の家

5月

学外研修（2～4年生）

- 2年生（工場見学）

【実施日】 平成23年5月20日（金）
【場　所】 四国電力㈱坂出発電所・坂出LNG㈱

- 3年生（工場見学）

【実施日】 平成23年5月20日（金）、6月17日（金）
【場　所】 ㈱井関松山製造所（M）、四国電力㈱（E, D）、
帝人㈱松山事業所、愛媛県産業技術研究所（Z）、
大王製紙㈱三島工場（C）

- 4年生（工場見学）

【実施日】 平成23年5月13日（金）、20日（金）
【場　所】 新日本工機㈱信太山工場・大阪機工㈱猪名川製造所
四国電力㈱伊方発電所・せと風の丘パーク
ヒロポーライブファクトリー
三菱ガス化学㈱水島工場・（独）農業・食品産業技術
ニッポン高度紙工業㈱春野工場

4月・6月

平成23年度　愛媛県高等学校総合体育大会

参加12競技（陸上、水泳、サッカー、バスケ、バレー、バドミントン、卓球、ソフトテニス、テニス、柔道、剣道、弓道）
参加人数148名
（男子125名、女子23名）

7月

四国地区高専体育大会壮行会

7月15日（金）

7月

第48回四国地区高等専門学校体育大会

7月17日（日）～7月26日（火）の間、
阿南高専を担当校として
例年通り6高専分散方式で開催された。
各種目の主な成績は次のページのとおりであった。

第41回西日本地区高専弓道大会

平成23年度の本大会は、7月9日（土）、10日（日）、
阿南高専を担当校として、
鳴門・大塚スポーツパーク弓道場で行われた。

7月

第４８回四国地区高等専門学校体育大会　　大会結果

総合優勝　高知工業高等専門学校
総合準優勝　新居浜工業高等専門学校

成績　種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位
陸上競技	高知	高松	阿南	弓削	詫間	新居浜
バレーボール（男子）	阿南	高知	詫間	新居浜	高松	弓削
バレーボール（女子）	阿南	新居浜	高知	詫間	弓削	—
ソフトテニス	阿南	高松	新居浜	詫間	高知	弓削
卓球	高知	新居浜	高松	詫間	阿南	弓削
サッカー	新居浜	高知	詫間	阿南	高松	弓削
バスケットボール（男子）	詫間	高松	新居浜	阿南	高知	弓削
バスケットボール（女子）	新居浜	阿南	高松	詫間	弓削	高知
柔道	高知	新居浜	阿南	高松	詫間	弓削
剣道	高知	高松	新居浜	阿南	弓削	詫間
硬式野球	阿南	高松	新居浜	詫間	高松	弓削
水泳	高松	高知	詫間	新居浜	阿南	弓削
テニス	新居浜	高知	阿南	詫間	高松	弓削
バトミントン（男子）	高松	高知	詫間	新居浜	阿南	弓削

	高知	新居浜	阿南	高松	詫間	弓削
総合得点	**62**	**57.5**	**54**	**50.5**	**44.5**	**19.5**

7月

鳥人間コンテスト
7月30日（土）・31日（日）

8月

第44回全国高等専門学校体育大会

8月19日（金）～9月4日（日）の期間
茨城高専を担当校に関東・信越地区で開催。
成績は次のとおりであった。

8月

平成23年度　全国高専体育大会の結果

- **バスケットボール(女子)** (都立産業技術(荒川)) **第3位**
- **ソフトテニス** (長野)
  - 個人戦(男子) 5D近江 孝彬・3M小西 亮輔 **第3位**
  - 個人戦(女子) 3C村上 真穂・2-3(C)田中 亜依 初戦敗退
- **サッカー** (木更津) **第3位**
- **陸上競技**(長野)
  - 男子走高跳 3D黒田 航 予選敗退
  - 女子砲丸投 1-1(C)洲脇 瑞華 予選敗退
- **テニス**(東京)
  - 団体戦 2回戦敗退
  - 個人戦ダブルス 5E藤本 涼平・5D安藤 慎 初戦敗退
  - 5Z久保 絢二朗・3C滝本 祐也 初戦敗退
  - 個人戦シングルス 5E藤本 涼平 初戦敗退
  - 3C滝本 祐也 2回戦敗退
- **柔道**(都立産業技術(品川)) 90kg超級 3M平井 一樹 初戦敗退
- **剣道(女子)**(長岡) 予選敗退
- **バドミントン**(小山)
  - 団体戦(女子) **準優勝**
  - 個人戦シングルス(男子) 3D北岡 真一 初戦敗退
  - 個人戦ダブルス(女子)
  - 5C丹下 梨穂・4C飯尾 奈々 **準優勝**
  - 3Z堀江 みづき・2-5(Z)橋本千草 **第3位**
  - 個人戦シングルス(女子) 丹下 初戦敗退
  - 飯尾 2回戦敗退
- **水泳競技**(木更津)
  - 100m背泳ぎ 3D星加 恭兵 **第3位**
  - 200m背泳ぎ 3D星加 恭兵 4位
  - 100m自由形 4D渡辺 慎司 予選敗退
  - 200m自由形 1-4(E)河村 勇太 予選敗退
  - 100m平泳ぎ 3D藤田 晴樹 予選敗退
  - 100mバタフライ 3C仙田裕一朗 予選敗退
  - 50mバタフライ 1-1(C)竹林 美月 予選敗退
  - 50m背泳ぎ 1-1(C)竹林 美月 予選敗退
  - 400mリレー(河村・渡辺・仙田・星加) 予選敗退
  - 400mメドレリレー(星加・藤田・仙田・渡辺) 予選敗退

8月

打ち水大作戦2011

高専打ち水大作戦（7年目）7月20（火）・・・・台風中止
新居浜夏祭り昭和通り打ち水大作戦8月6日（土）

16:00～16:15

高専三大コンテスト

全国高等専門学校ロボットコンテスト（ロボコン）
【実施日】 2011年10月23日(日)四国地区大会
【主管校】 新居浜高専
【結果】 ・・**「燦のQB」特別賞（KK安川電機）**

全国高等専門学校デザインコンペティション（デザコン）
【実施日】 2011年11月12日(土)・13日(日)
【主管校】 釧路高専
【結果】 ＜構造デザイン部門＞「Foxtail」優秀賞
＜ものづくりコンペティションの部門＞
「紙で留める、紙で響かせる」

全国高等専門学校プログラミングコンテスト（プロコン）
【実施日】 ＜予選＞2011年7月30日(土)
＜本選＞2011年12月22日(木)・23日(金)
【主管校】 舞鶴高専
【結果】 ＜課題部門＞「BOLT-BODY　Language Translator」（敢闘賞）
＜競技部門＞「すたんぷ！」

10月

高専ロボコン2011四国
日時：平成23年10月23日（日）
場所：新居浜高専　第1体育館

11月

国領祭：「爛漫」
2011年11月5・6日（土・日）

- 野外ステージ、ライブハウス
- ゲスト講演会（柳田理科雄先生）
- 学科展示・・・・・5学科
- 文化部展示・・・8文化部
- チャリティバザー
- 献血
- ちびっこサッカー大会
- テニス大会　など

テント出店数・・・・38店
一般来客・・・約2200名

12月

四国地区高専総合文化祭

- 写真の部　：　佳作（2名）
- 絵画の部　：　佳作（2名）
- ミニロボットコンテスト
  　アイデア倒れ賞（新居浜Eチーム）
- 英語スピーチコンテスト　自由弁論の部第4位

通年

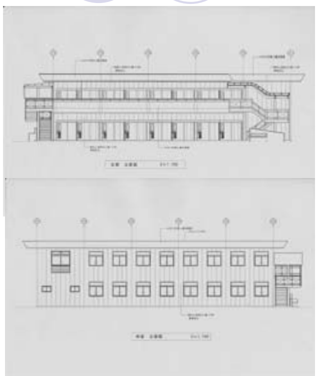
平成23年度　チャレンジプロジェクト　一覧表　　審査日：6月23日

プロジェクト名	代表者	学年 学科	人数	指導 教員	申請額	援助予定額 物品費	旅費	合計	備考
B.A.A.プロジェクト (B.A.A.: Bi Area Activation)	首藤綱志	4 M	5	吉川	¥94,900	¥94,900	¥0	¥94,900	東日本大震災被災地・被災者支援
t−カップチャレンジ	高橋純平	5 D	5	福田	¥98,800	¥23,600	¥75,200	¥98,800	「時の甲子園 in 小金井 t−CUP Challenge」に参加
鳥人間コンテスト応援プロジェクト	押田浩輝	4 M	5	平田	¥97,850	¥0	¥97,850	¥97,850	「第34回鳥人間コンテスト」に参加する本校鳥人間航空研究部の応援
					¥291,550	¥118,500	¥173,050	¥291,550	

7月、3月

高専ソコヂカラ
平成23年7月28日（木）　平成24年3月9日（金）

クラブハウス新設（平成24年度供用開始）



仕様（2階建）

・部室16室
・多目的ルーム1室　・男女トイレ
・シャワー室　・ランドリー

12月以降のおもな行事
（学生支援委員会関連）

平成23年
12月17日（土）・18日（日） 四国地区高専総合文化祭（高知）

12月22日（木）・23日（金） プロコン全国大会（舞鶴高専）

平成24年

1月25日（水）	クラスマッチ、学生会長立会演説会
2月7日（火）	企業説明会（第1体育館）
3月9日（金）	高専ソコヂカラ
3月24日（土）・25（日）	全国高専選抜弓道大会 （新居浜高専主管校）

学寮運営について

2012.1.19
寮務主事　皆本佳計

学寮の現状

	向陽寮	雄風北寮	雄風南寮	蛍雪寮	青雲寮	清風寮	
定員	164	87	63	59	59	60	492
現員	**87**	**54**	**60**	**59**	**59**	**51**	**373**

1年	2年	3年	4年	5年	専攻科
57	57	78	86	**77**	18
11	7	8	12	13	1

女子:内数

食堂　383名

指　導　体　制

➢寮務委員会
　寮務主事　主事補(3名)　委員(5名)　学生課長
　　S,E,C　　G,M,E,D,Z,

➢寮事務室 (8:30～17:00)
　常勤　1名　非常勤　2名　(曜日で交代)

➢寮生会　20名
　寮生会長　風紀委員会、文化委員会、体育委員会
　　生活委員会、環境衛生委員会

➢指導寮生会
　指導寮生　14名　指導寮生補佐　26名

➢宿直　2名　原則全教員が担当
　　寮務委員は、2週間に1度の割合で。

朝巡回・登校指導など

➢朝巡回　8:35～9:30　2名で
　低学年寮(3棟)と女子寮
　全居室
　体調不良で寝ているものはいないか？
　居室の使用状況
　1階は戸締りの確認。

寮務委員の割当表

月	火	水	木	金
2名	2名	あいさつ運動 4名	2名	あいさつ運動 4名

朝のあいさつ運動

水曜日と金曜日　8:15 ～ 8:50

玄関に立ち、名札を受け取る
あいさつを交わす
お互いに顔を覚える

名札が残っている学生を確認
1階の戸締りを確認

行　事

毎月1回
　学年集会　21:30 ～ 23:00
　居室訪問　21:30 ～ 23:00

4月　4,5日　リーダー研修 (1泊2日)
　　6日　入寮式
　　21日　前期寮生大会 (夜)

5月　7日　野外活動 (土曜日)
　　8日　大掃除、寮マッチ(日曜日)

6月　14日　1年生寮部屋替え

7月　2,3日　保護者懇談会(土・日曜日)
　　29,30日　体験学習 (土曜日)
　　31日　閉寮 (日曜日)

8月29,30日　夏季リーダー研修　（1泊2日）

9月　　4日　寮マッチ　（日曜日）
　　10日　学校見学会（日曜日）

11月　5,6日　国領祭（チャリティバザー）

12月　23日　掃除チェック・閉寮　（祝日）

1月　14日　寮マッチ　（土曜日）

2月　28日　後期寮生大会・送別会（夕方から）

3月3,4,5日　部屋替え（土・日曜日）

取り組み・課題

- **エアコン**
  10月には工事完了
  電源設備の工事は学校負担
  エアコンは学寮保護者会がレンタル。学寮運営経費値上げ。
- 洗濯機の増設（高学年）
- 洗濯物干し場（室内物干し竿）
- 自転車置き場
- *LANの管理・・・WG立ち上げ*

- インフルエンザ
- 高学年寮の定員オーバー
  1年生寮一階を利用
  電源工事（自動消灯解除）
  テレビアンテナ工事
- 教員の負担軽減
  ・業務委託を検討中
  例えば、休日の宿日直

【柳澤議長】

それでは、鈴木校長からの最近の主要動向の説明、議題 1、2、3 に関しまして、まとめてご質問・ご意見をお願いしたいと思います。

【小野委員】

えひめ東予シップリサイクル研究会の設立という事についてですが、大変素晴しい活動だと思います。新居浜商工会議所としましても、研究会に参加させていただいており、職員にもできる限り参加させております。

現在、羊蹄丸を新居浜市の方で受け入れを行うことが決定されているようですけれども、収支計画が明確になっていないと職員から聞いております。また、一部の研究会員の意見だけが先行して、9 月に申請を行い 11 月に譲渡が決定したと聞いております。現状では、羊蹄丸にかかる一般公開や新居浜港に接岸する費用、あるいは解体にかかる経費などは新居浜市からの補助金により大部分が補填されると聞いております。

今後このような多額の経費が必要な事業については、専門家等の意見も踏まえて十分に時間をかけて慎重に審議・調査するべきと思います。研究会のメンバー間でも温度差があり、「研究するために入ったのに、早速解体するまでの話が進んでいる」といった意見も一部聞きます。今後は、その辺を十分に検討・研究されるのがいいのではないかと思います。

【鈴木校長】

ありがとうございます。このシップリサイクル研究会における「船の解撤」は、当初の計画ではあと数年先に実施することを想定して立ち上げたものです。しかし、羊蹄丸が無償譲渡されるということで、このチャンスを活かそうと、研究会役員のメンバーによるグループが申請を行ったというのが実状です。その後、その話がとんとん拍子に進み十分な検討がなされていなかったのは確か

でございます。しかし、そのグループが努力を続け、事業実施に向けての見通しがたったという状況です。ご指摘のとおり、研究会のメンバー全員が慎重に議論すべきだったと思いますが、そういう時間がなかったというのも実状です。ただ、この研究会自体は長期的な研究開発を行うことを目的としており、全く羊蹄丸は付随的な話でございます。羊蹄丸の解撤を実施することで、当初の計画より 4、5 年早く事業実施の機会が訪れたわけですけれども、せっかくの機会ですので研究もそれに参画してはとの方向で進めている状態です。このような大きな事業は慎重にやるべきだったと反省しております。今後ともご指導の程よろしくお願いします。

【柳澤議長】

これに関しまして、関係者は話が分かると思いますが、そうでない委員の方は十分理解できなかったと思いますけれども、シップリサイクルと新居浜高専の関り方はどうなっているのでしょうか？

【鈴木校長】

当初、羊蹄丸の無償譲渡先は NPO 法人や一般社団法人等を想定しておりました。研究会は、その法人から技術開発の研究や分析等の依頼を受け、シップリサイクルの事業化に寄与していく計画です。ただ、その法人を設立する前に研究会として申請を行ったため、現在、法人の設立を急いでいるところです。新居浜高専としては、そこから研究を委託されるという形です。

【柳澤議長】

新居浜高専がどこの部分に関っているかが理解できなかったのですが？

【鈴木校長】

シップリサイクル研究会の事務局は新居浜高専の中にあり、会員となり活動している教員もおります。法人というのは、名前は同じような名前ですけれど、研究会とは別に設立し、船の科学館はその法人に無償で羊蹄丸を譲渡するということです。

【柳澤議長】

小野委員、よろしいでしょうか。

【小野委員】

研究会としては非常にこれでいいと思います。今後の新居浜におけるビジネスとして、先程の主要動向の説明中にもありましたが、今後の法令やバーゼル条約がどうなるかということになってくると思います。しかし、やはり研究会ということですから、ビジネスが先にたって、解体してどういうふうに利益が出て損をするとかまで先々話しが進んでいくものですから、研究会に入っている企業と、その実際に解体までやる企業とをどうするかと言う話しが、研究会員の企業の中でも議論が別れているところと思います。今後は、慎重にやっていただきたいと思います。趣旨はもちろん賛成です。

【柳澤議長】

それではこの件は一旦ここでおいて、他の事に関して何かありますか。

【平田委員】

皆本先生のほうで寮の管理をしてもらっているとのことですが、朝の挨拶運動というのは良い取組だと思いました。入寮して、礼儀作法や他の者への思いやり、挨拶とか秩序を守るとかを、寮生ならではの学び方ができていると感じ

ます。その中のほんの一つでしょうが、朝の挨拶運動の「いってらっしゃい」という挨拶もありますが、やはり「おはようございます」「こんにちは」とかそういう最近失われているような一番大切な挨拶が交わされていると聞き、是非、寮から発信して学校中に挨拶が広がっていくよう、教職員の方も含めて挨拶が飛び交うそんな場になるよう取り組んでいただけたらと思います。

【皆本寮務主事】

ありがとうございます。寮としてもそういう寮生、新居浜高専の学生になるよう努力していきたいと思います。

【柳澤議長】

他はいかがでしょうか。

【藤原委員】

本当に子ども達を大事にしているという学校側の姿勢がよく分かり大変ありがたく思いました。

私自身、中学校の教師として考えたとき、入学志願者数に関して、最近の小中学生においては活字離れや理科離れというのが言われているかと思います。貴校は理数系に重きをおく学校だと認識しております。中学校における高校説明会にも参加されておりますが、こういうと失礼かもしれませんが、入学志願者数を増やせば質も上がると思うのですけれど、増えた数が、実質的に理数系の得意な者だけが集まるケースもあるでしょうし、一方、資料の中に転科ということもありましたが、ちょっと自分と合わないなとか迷いながら入学するケースもあるかと思います。

校長先生は 1.8 倍を目標にするとおっしゃられましたが、その数値目標をたてられて、より質の高い子供達を呼び込むということに対しまして、現実はど

のような状況なのかをお教えいただきたい。

あと、県内外を問わず、一人でもここ数年入学実績あれば出向いて説明会を実施し、県下は全部回られていると説明がありましたが、そういった保護者や生徒に直接訴える機会をより多く設ける事が効果的なのではと思いました。

【西谷教務主事】

ご意見ありがとうございます。やはり中学生の段階で、専門科目を含めきちっと自分の適性を見きわめるは難しいと思います。例年、進路を変更する学生が出ているのが現状です。そういったケースを防ぐ意味でも、中学校に足を運んで、本校に入学してから学ぶ内容や適正、こういう子に来てほしいという説明を丁寧に行い、間違って入学するようなことがないように注意しております。今後も取組を続けていきたいと思います。

【柳澤議長】

他はいかがでしょうか。

【石川委員】

先ほどの入学者の確保のことでお聞きします。高専の学科試験と面接がありますね。面接は県立高校の学科試験と日程が重なっていると聞きましが、そうなのでしょうか？

【西谷教務主事】

はい。

【石川委員】

教育長にそのことを聞いてみたのですが、県立高校の立場から言うと、高専

と試験日程が重なって、高専に行く人が全員面接を受けたら県立高校は受験しないので、県立高校の定数を確保するには、都合が良いとのことですが、高専としてはどうお考えでしょうか。別に、今問題があるというわけではないのですが、入学者の確保という意味ではどちらの方が高専にとって良いのかをお聞きしたいと思います。

【西谷教務主事】

新居浜高専としてはずっと今の形式で県立高校の入試日と面接日を重ねて実施しております。それでもほとんど辞退者も無く、こちらの合格者の名簿と同じの子が来ていただけるので、高専としてもやりやすいかと思います。やはり入学者の数が見込めるのは大きいです。県立高校のほうも今の形式がいいとおっしゃっておられるのなら、私どももこれを続けたいと考えております。

【鈴木校長】

さきほど倍率 1.8 倍といったのは、高専機構の中期目標に書き込んでおります。第一期にそれが達成できなかったのが実状です。今、石川委員がおっしゃったように、面接を県立高校の試験日とずらせば、受験生は併願してくれますから 1.8 倍にしようと思ったらその方が良いのかもしれませんが、多くの辞退者を考慮しなくてはなりません。目標を達成するためには、おっしゃるように試験日を一緒にしないほうが倍率は上がるだろうということは想定しています。

【平田委員】

日本の国は、ものづくりや、工業分野とかを大事にしないといけないと思います。国民全体の機運というか、ものづくりとは凄いんだとか、あこがれるとか、それを親も子もみんながそう思うような国にならないといけないと思いま

す。高専が、こういう学校でこういった勉強をするといいよと、応募してもらえるようPRする訳ですが、その倍率があがっていくということは、日本の一般の人々がこういう分野に進みたいな、いいな、と考える気持ちが高まるということです。ですから、倍率は高めていってほしいと思います。

保護者の方へのPRもというお話がありましたけれど、去年12月に50周年の記念行事の一つとして佐治晴夫先生をお招きしましたが、ああいう方の科学技術や数学、宇宙に関するお話というのは、人間の原点に戻ったようなお話であったと思います。そういう方の話を子供達や保護者も含めて、新居浜高専が提供し、こういった学校やこっちの方向がいいなと感じるような仕掛けを積極的に行って欲しいものです。

【西谷教務主事】

ありがとうございます。ぜひああいった講演会は引き続き開いていきたいと思います。

【小野委員】

やはり日本というのはものづくりの国だと思います。そのなかで新居浜高専の入学者の確保ということですが、新居浜高専として実施されてる行事の中で、市民に最も親しまれている行事はなんといっても国領祭だと思うのですが、その国領祭で入試の広報活動をされているとのことですけれども、このほかにも小中学生むけに体験型のイベントなどを開催することで、ものづくりへの興味を持ってもらう、楽しさ面白さをもっとアピールしていくことで受験生入学者の確保につなげていかれたらと思います。

ちょうど国領祭は小中学生が多く来られていますし、親子連れでも来られていますから、そういう機会をもっと利用してやられたらと思います。

【西谷教務主事】

ありがとうございます。今も出前授業等で小中学校に行って、本校の学生が先生になって実験実習をするというようなことはやっておりますので、これからもますます盛んにしていきたいと思います。

【柳澤議長】

他はいかがでしょうか。

【渋谷委員】

私は3年目になるのですが毎年非常に多角的な取り組みをされていて感心しています。去年、一昨年も感じたのですが教育の中で英語の教育に非常に力をいれておられる。今の時代、企業に入ったとしても英語の読み書きや話すことができないと、なかなかいい働きをすることができないということで大事な部分だと思います。英語の教育というのは専門家でない者がやるのは非常に大変で効果がなかなかあがりにくい。語学は生徒さんがその気になれば今の社会いろんな仕掛けが用意されているので、自分でどんどん上達するというような性格があると思います。一番大事なのはその動機づけで、英語はやっておかないと大変だと思わせるような仕掛けを工夫して考えられるのがいいのでないか。工業高等専門学校ですから、語学もさることながら工業高専ということでありますので本末転倒にならないようにしてほしいと思います。

それから入試志願者のことですが、この少子化のなかで1.5倍前後の競争率で大体安定しているということは実は感心して聞いていたところです。一つ気になるのは、推薦の志願者数が少し右肩下がりになっているのではということがあるのですが、これはもしかすると中学生の自然減とだいたい対応しているのかなと思いますがその辺のご説明をお願いしたいのと、推薦者の数と、先程から言われている学生の質が大事なことだと思います。そういったことの工夫

をされていることがありましたらお伺いしたいと思います。

【西谷教務主事】

推薦の志願者数ですが、お陰様でだいぶ増えまして、今回は 157 名の中学生が面接に来てくれます。中学生の数が減っているとは思いますが、今回は昨年とくらべて 40 名程度増えております。喜んでおります。

推薦で入学する学生の質ですが、教える側としてはやはり理科離れや計算力の低下は感じております。中学の指導要領もまた変わりましたので、これからはゆとり世代からは改善されるのではと期待しております。入学後、スムースに高専の勉強に繋がるよう、入学者にはきめ細かい指導をしていきたいと考えております。

【柳澤議長】

他はいかがでしょうか。

【北山委員】

非常にいろんな取り組みをしていて感心して聞いておりました。これだけたくさんの取り組みをされているので、学生が自主的に色々なことを行っている取り組みも多いと思いますが、そういった意味では寮もそうですし、学校行事も学生自体が自主的に取り組むということを、ご指導いただければその後のいろんな活躍に役立てると思うので宜しくお願いします。

【柳澤議長】

他はいかがでしょうか。

それでは、私から 1 点。別の補足資料等で 19 ページからアンケート結果がありますが、このアンケートの項目は新居浜高専が独自に設定しているのか、あ

るいは高専機構で設定されているものなのか。

あと、結果のところで気になったのが 20 ページで「自分の属する学科と合わないと思ったことがありますか？」という質問で、ぱっと見たところ学年が上がるほどパーセンテージが増えている傾向に読みとれますね。この質問の表現が悪いのかは分かりませんが、生徒にとって自分の現在いる学科が本来の学科じゃないのではないかと思っている比率が思いのほか多いと感じました。このあたりは何か分析されていることはありますか。

【谷口副校長】

最初のご質問につきましては、私どもの学校独自の設問でアンケートを取っております。また、ご指摘のあった自分の属する学科と合わないと思ったことがありますかという、「ことがありますか」という表現が、たとえば低学年のときに一度でも思ったら「ある」と書いてしまうことになりますので、今そういう状況にあるかどうかという設問の方が良いかと思います。また検討したいと思います。

【柳澤議長】

それではここで休憩に入ります。

教育の質の向上と改善、国際交流

教務主事　西谷郁夫

平成23年度運営諮問会議（H24．1．19）

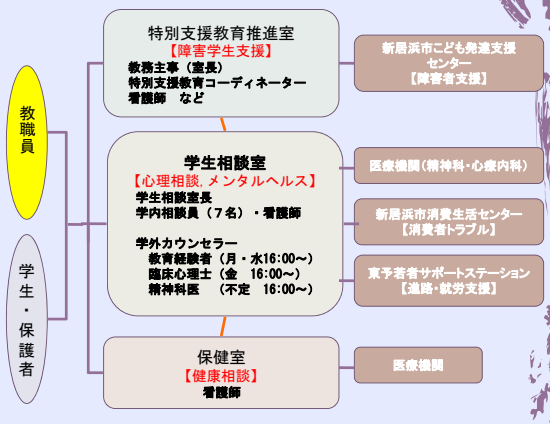
教育の質の向上と改善についての平成23年度 新居浜高専年度計画

1．FD研修の継続、強化
2．本科4年生、専攻科1年生全員のインターンシップ実施
3．新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」等との連携
4．JABEE継続審査において指摘された点への改善

1．FD研修の継続、強化

・教員会を毎月開催し、教育改善についての情報交換等を行っている。（資料1）
・機関別認証評価の結果を踏まえ、一般科目と専門科目を担当する教員間の連携を図るために、科目間調整連絡会（英語、数学、物理）を実施した。
・教員研修会を多数開催する。（資料1）
・特別支援教育推進室を設置した。（資料1）

新居浜高専の学生相談等組織（平成23年4月）



2．本科4年生、専攻科1年生全員がインターンシップに参加

全員が夏季休業中にインターンシップを実施した。専攻科生産工学専攻では新たに1社インターンシップ受け入れ先を開拓し、1か月の実務型シニアインターンシップに13名中9名が参加した。

3．新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」等との連携

・講義内容に適した現職企業人に経営工学(5年後期)講師を依頼している。また、「愛テクフォーラム」の学生会員による学外研修を実施し、学生の能力向上に努めた。
・大手機械メーカーを退職された方に、非常勤講師として電子制御工学科の電気機器、電気情報工学科の電気法規の授業を依頼している。

4．JABEE継続審査において指摘された点への改善

JABBE推進室会議において、次期審査に向けてワーキンググループを設置した。また、今年度の活動計画について確認した。（資料2）

国際交流についての
平成23年度 新居浜高専年度計画

1. 国際交流推進室が中心となって、一層の留学生指導を行うとともに、機構が開催する研究会に参加する。
2. 海外研修を引き続き実施するとともに、海外からの訪問学生との交流を行う。
3. 学生、教員とも海外インターンシップへの参加を推奨する。
4. 高専機構が実施する私費留学生の3年次編入に協力する。

1. 留学生指導（資料3）

(1)・ 受け入れ実績（S60～H23）

マレーシア：51名、中国：6名、ベトナム：5名、
モンゴル：5名、ラオス：2名、その他：11名
総計：80名

・ 現在の在籍者数（9名）

	機械工学	電気情報	電子制御	生物応用化学	環境材料
3 年	マレーシア		マレーシア	モンゴル	
4 年	マレーシア	ベトナム		マレーシア	
5 年		インドネシア	マレーシア2名		

(2) 留学生歓迎交流会 平成23年6月16日

留学生、学生、教職員、地域の国際交流団体が一同に会し、今年度新たに入学した留学生を歓迎するとともに、異文化の紹介、地域におけるボランティア活動の実施状況の紹介等の交流を通じて相互の理解と友好を深める。

(3) 外国人留学生研修旅行（10月）
（日本文化体験、留学生の交流）

- 平成20年度：名古屋(トヨタ博物館他)、三重(伊勢神宮他)
- 平成21年度：別府、福岡(大宰府他)、広島(平和記念公園)
- 平成22年度：京都(金閣寺他)、奈良(東大寺)、大阪
- 平成23年度：愛知(トヨタ博物館)、三重(伊勢神宮他)

（4）留学生ウィーク 平成23年12月12日

外国人留学生と彼らの母国を全校学生、教職員、地域の方に紹介し、相互に理解を深める。

2. 海外研修、海外からの訪問学生との交流

(1) 海外研修

- 平成18年度　上海（中国）

訪問場所：上海電力学院、上海シャープ他
参加者：学生25名、教員2名
目的：国際化時代への関心の高揚、語学や　歴史・文化に係る科目の学習の動機付け

・平成19年度　シカゴ（アメリカ）

訪問場所：イリノイ大学、ルーズベルト大学他
参加者：学生30名、教員3名
目的：異国・異文化体験、英語学習への動機付け

◆ 平成20年度　リズモア（オーストラリア）
訪問場所：サザンクロス大学他
参加者：学生18名、教員2名
目的：英語研修及び英語学習への動機付け

◆ 平成21年度　リズモア（オーストラリア）
訪問場所：サザンクロス大学他
参加者：学生8名、教員2名

◆ 平成22年度　重慶、北京（中国）
訪問場所：重慶工業職業技術学院、北京他
参加者：学生8名、教員2名
目的：発展著しい中国を体感し、国際的な視野と感覚を養う。

・平成23年度　リズモア（オーストラリア）(資料3)
訪問場所：サザンクロス大学他
参加者：学生21名、教員2名
目的：英語研修及び英語学習への動機付け

（2）海外からの訪問学生との交流
・サザンクロス大学来訪　平成23年6月16日

・中国重慶工業職業技術学院代表団来訪
平成23年10月11日

3．学生、教員とも海外インターンシップへの参加を推奨する。
学生1名が(株)ツネイシホールディングスへ内定している。

4．高専機構が実施する私費留学生の3年次編入に協力する。
平成24年度は、国費留学生1名、マレーシア政府派遣留学生1名の受入が決定している。
その他に私費留学生2名までの受入を高専機構に申し出ている。

第7回運営諮問会議（平成24年1月19日(木)）

研究及び社会連携活動

高度技術教育研究センター ・ 中 山 享

研 究 活 動

平成23年度年度計画

・教員会において科学研究費補助金等の申請の説明および推奨を行う。
・年間業績報告書を作成する。
・新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」と連携して企業との共同研究を推進する。
・本校の高度技術教育研究センターが中心となって、研究成果の発表を推奨する。
・高度技術教育研究センターが中心となって、教員の研究を支援（奨励）し、その研究成果の知的財産化を推進する。

- 査読付き論文発表状況
- 科研費申請・採択状況
- その他の外部資金導入状況
- 研究例
- 知的財産化

・新居浜高専研究者総覧（平成16年度～、毎年4月に更新）
・新居浜高専・研究シース集（平成18年度～、毎年4月に発刊）
・海南タイムス誌に「新居浜高専技術シース」連載（平成18年度～）
・イノベーション・ジャパン、産学連携推進会議、新技術説明会など全国規模行事への参加
・新居浜市役所でのパネル展示（平成16年度～）

査読付き論文数

「年間業績報告」から

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	数理科	一般教養科	計
平成22(2010)年度	4（3名）	6（3名）	7（5名）	10（5名）	18（6名）	3（2名）	5（5名）	53
平成21(2009)年度	7（5名）	3（1名）	3（2名）	15（8名）	9（3名）	14（2名）	4（3名）	55
平成20(2008)年度	5（3名）	0	11（6名）	6（3名）	12（6名）	8（2名）	8（5名）	50
平成19(2007)年度	4（4名）	4（3名）	5（4名）	10（5名）	10（5名）	8（4名）	1（1名）	42
平成18(2006)年度	1（3名）	11（7名）	9（6名）	8（5名）	9（5名）	9（5名）	1（1名）	48
計	21	24	35	49	58	42	19	**248**

教員1名・年間0.6報

科研費申請数（研究代表者分のみ）

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	数理科	一般教養科	計
平成23(2011)年度	3	3	2	5	6	1	1	**21**
平成22(2010)年度	1	4	2	5	6	0	0	**18**
平成21(2009)年度	3	0	2	7	7	2	2	**23**
平成20(2008)年度	2	3	3	5	6	2	1	**22**
平成19(2007)年度	0	5	7	5	4	1	3	**25**
計	9	15	16	27	29	6	7	**109**

科研費採択数（研究代表者のみ、（）内は継続分）

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	数理科	一般教養科	計	交付額
平成23(2011)年度	0	0	2(1)	2(0)	1(1)	1(1)	0	6	1,079万円
平成22(2010)年度	1(1)	1(0)	1(0)	2(1)	1(0)	1(0)	1(0)	8	1,062万円
平成21(2009)年度	1(1)	1(0)	1(1)	3(1)	2(1)	1(1)	2(0)	11	1,569万円
平成20(2008)年度	1(1)	1(1)	0	3(3)	2(1)	1(1)	3(0)	11	1,764万円
平成19(2007)年度	0	1(0)	0	3(2)	1(1)	0	2(2)	7	1,260万円
計	3	4	4	13	7	4	8	**43**	**6,734万円**

科研費以外の外部資金導入実績

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	計
共同研究	10件	11件	17件	15件	12件	**65件**
	415万円	602万円	915万円	692万円	505万円	**3,129万円**
受託研究	10件	9件	11件	7件	4件	**41件**
	1,968万円	1,089万円	1,363万円	1,091万円	939万円	**6,450万円**
技術相談	172件	146件	169件	194件	179件	**860件**
特許出願	7件	1件	0件	3件	3件	**14件**

5年間で 9,579万円

全高専(51校)中の順位

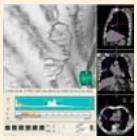
	H20年度	H21年度	H22年度
共同研究	8位	14位	23位
受託研究	4位	22位	25位

JST(シーズ発掘&A-step／受託研究分)間違

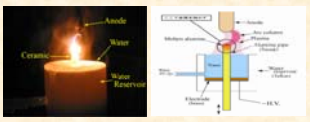
	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
採択数（申請数）	6（21）	3（20）	1（12）	1（8）

代表的な研究例

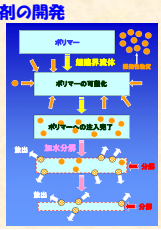
X線CT画像の3次元画像処理による中皮腫とアスベスト肺の自動診断システムの開発と臨床評価



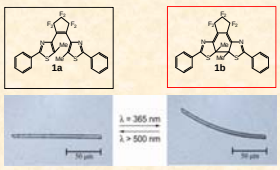
水／セラミック電極を利用した接合形成技術や難溶融物質処理技術への応用



徐放性能の優れた害虫・鳥獣類防除剤の開発



光駆動分子結晶アクチュエーター



2007年4月12日号の「Nature」に掲載
※光で動く有機結晶を世界で初めて紹介

知的財産化

平成18年度～

「新居浜高専知財委員会」にて審査（特許出願関係分）22件
高専機構への承継申請件数　22件
高専機構から承継決定件数　18件
特許出願件数　14件
（審査請求依頼：5件、審査請求辞退：2件、拒絶査定：1件）

四国地区高専・知的財産紹介シート集
（四国地区高専地域イノベーションセンター＜知的財産部門＞）

社会連携活動

平成23年度年度計画

・企業との共同研究を促進しつつ、新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」の充実を図る。
・地域で推進しているものづくり人材育成事業に積極的に参加する。
・産学官連携コーディネーターを活用し、研究の活性化・促進を図る。
・新居浜高専研究シーズ集、高度技術教育研究センター報の充実を図る。
・企業と連携し、学生が講師役を務める出前授業を継続する。
・小、中学校の理科・技術系教員を対象にした研修会を開催する。
・インキュベーションラボラトリーの充実を図る。

・各種講演会
・経営工学
・愛テクフォーラム

・小中学生向け&一般市民向け出前講座（平成16年度～）
・中学校技術教員実技研修会&小中学校理科教員実技研修会（平成16年度～）←ものづくり教育支援センター
・長期シニアインターンシップ（平成20年度～）← 機械工学科
・生産現場改善技術者養成研修（平成22年度～）← 機械工学科

工業技術懇談会＆科学技術特別シンポジウム

「工業技術懇談会」
近隣地域の企業在職者、行政職員、本校・学生を対象
（平成3年度～、年1～3回、本年度末で49回開催）

「科学技術特別シンポジウム」
本校・学生、一般市民を対象
（平成12年度～、年1回、本年度で13回開催）

主催：新居浜高専、東予産業創造センター、新居浜商工会議所、愛テクフォーラム
後援：新居浜市、えひめ産業振興財団、フロンティア企業クラブ など

山口大学「時間学研究所」
「超高齢社会の生き方：時間学からの提案」
「電波で見た宇宙の姿」

環境／土壌浄化技術
「多層構造のナノ鉄複合粒子による土壌・地下水浄化」
戸田工業株式会社
「KOSENをコアとした産学連携・地域貢献・外部資金獲得～環境技術に関する私たちのいくつかの経験から～」
富山高等専門学校

本科5年生を全員対象とした授業「経営工学」

	実施内容	講師
第2週	知財の基礎	愛テク：住友化学㈱
第3週	知財の活用事例	
第4週	特許情報について	
第5週	特許明細書作成演習（1）	
第6週	特許明細書作成演習（2）	
第7週	MOT入門	本校OB：愛媛大学
第8週	経済から見た技術への期待	愛テク：㈱愛媛銀行
第9週	近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場①	愛テク、本校OB：住友化学㈱
第10週	近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場②	愛テク：ユースエンジニアリング㈱
第11週	品質管理の基礎	愛テク：㈱テラマチ
第12週	品質マネージメントシステム	
第13週	事例研究と社会人の基礎素養	本校OB：愛媛大学
第14週	経営者から見た技術者	本校OB：森実運輸㈱

・平成16年度～、本年度8年目
・講師は、「愛テクフォーラム」法人企業と本校OBのみに依頼
・知財関連に重視(平成22年度～)

愛テクフォーラムの活動例

平成17年7月7日設立
・地域産業界との人的交流及び情報の交流
・共同研究など技術研究開発の連携推進
・リフレッシュ教育等技術者育成支援
・新居浜 高専の教育研究の振興 など。

4部会体制
・企画部会
・制御・メカトロ部会（介護工学研究会）
・環境・エネルギー部会
・シップリサイクル部会（えひめ東予シップリサイクル研究会）

介護工学研究会

えひめ東予シップリサイクル研究会

『科学・技術フェスタ』
平成22年6月5日

『メッセナゴヤ2010』
平成22年10月30日

『理化学研究所』
平成23年8月26日

学生会員を平成22年4月に設置
その目的は学生自らが地域の産業界と交流することを通して、学生の自主性や実践力を養おうとするものである

『メッセナゴヤ2010』報告会
（第46回工業技術懇談会）

『活動報告書2010
学生会員による最前線レポート』

・第45工業技術懇談会の開催（講師選定・企画）
・研修活動報告会の企画・実施、報告書の企画・作成
・環境・エネルギー部会活動への参加
・愛テク法人会員企業への特許検索支援

その他・活動例

新居浜市役所との連携
・正光寺山古墳群から出土したガラス管玉およびガラス小玉の化学分析
・多喜浜焼きの化学分析

地域各種イベント企画・参加

ご清聴ありがとうございました。

本　館（生物応用化学棟1階）

出前授業
「果物のにおいを作ろう」

「地球温暖化実験」

高度技術教育研究センター

別　館
（インキュベーション・ラボラトリー）

打ち合わせ風景

『科学・技術フェスタ in京都』会場にて

愛テク学生会員

優れた教員の確保、管理運営、業務改善について

新居浜工業高等専門学校

優れた教員の確保（機構中期計画）

① 多様な背景を持つ教員組織とするため、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60 %以上となるようする。

② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1 年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることのできる人事制度や、高等学校、大学、企業などとの任期を付した人事交流制度等について検討を進め、これらの制度を導入する。

③ 専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70 %以上とし、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80 %以上となるようにする。

④ 中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生活指導などに関する研修のため、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。

⑤ 教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。

⑥ 文部科学省の制度や外部資金を活用して、長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を設けるとともに、教員の国際学会への参加を促進する。

採用状況と人事交流

- 採用状況
  多様な背景を持つ人材を確保するため、公募制を採用し、H23年度はこれまでに企業経験者を2名・他高専から1名の計3名を採用した

- 人事交流
  H22年度に「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、1名の教員を豊橋技術科学大学へ1年間派遣した。
  H24年度からは、同制度により1名の教員を東京工業高等専門学校へ2年間派遣する予定である。

新居浜高専の現状

学　科		機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	数理科	一般教養科
教員総数		10	12	11	13	10	11	15
内訳	他機関での経験者	9	8	6	8	4	7	10
	博士・修士	9・1	12・0	10・1	13・0	10・0	10・1	4・6
	女性教員	0	1	0	1	1	0	1

平成24年1月1日現在

管理運営と業務改善（機構中期計画）

① 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。

② 管理運営の在り方について、校長など学校運営に責任ある者による研究会を開催する。

③ 法人としてのスケールメリットを生かし、事務の効率化・合理化を図るため、中期目標の期間中に、財務会計管理、人事管理、給与管理について一元的な共通システムを構築する。

④ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要な研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける異業種体験的な研修などに職員を参加させる。

⑤ 事務職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。

管理運営に関する事項

- 予算配分（H22年度）
  ■学内競争的資金の活用（公募型）
  ・共同研究推進費（2，000千円）
  ・教育推進費（1，000千円）
  ・教育研究基盤設備整備推進費（5，000千円）
  ■校長裁量経費の活用（4，700千円）

- 事務職員及び技術職員の人事交流（H24年1月現在）
  ◇事務職員
  目的：事務の活性化
  実績：国立大学法人から5名受入れ
  ◇技術職員
  なし

管理運営に関する事項(H23年度)

- 事務職員及び技術職員の研修(その1)

■外部研修に派遣し資質向上を図る

◎事務職員

- フレッシュマン研修　3名
- (独)国立高等専門学校機構初任職員研修　3名
- (独)国立高等専門学校機構知的財産講習会　1名
- 公共工事入札契約適正化法等に関する講習会　1名
- 就職・キャリア支援教職員研修会　1名
- 西日本地区国立高専初級人事事務研修　1名
- (独)国立高等専門学校機構施設担当職員研修会　1名
- 留学生担当職員研修会　1名
- 中国・四国地区国立大学法人等財務会計事務研修　2名
- 中国・四国地区国立大学法人等施設系技術職員研修会　1名
- 中国・四国地区国立大学法人等労務担当職員研修会　1名
- 契約事務研修　1名
- 学務関係職員研修会　1名
- 中国・四国地区国立大学法人等公文書管理研修　1名　　外

管理運営に関する事項(H23年度)

- 事務職員及び技術職員の研修(その2)

■外部研修に派遣し資質向上を図る

◎技術職員

- 情報システム統一研修　1名
- IT担当研修会　1名

管理運営に関する事項(H23年度)

- 危機管理体制の整備

平成23年5月、新居浜高専において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため，本校における危機管理体制，対処方法等を定め，本校の学生，職員及び近隣住民等の安全確保を図るとともに，本校の社会的な責任を果たすことを目的に、「リスク管理室」を設置した。

業務改善に関する事項(H23年度)

- 給与明細書の電子化(随時移行中)

教職員の給与明細書を、現行のハガキによる配付から、「WEB給与明細システム」の導入により電子化。

- 外部資金獲得の推奨

○企業訪問及び研究室訪問等によって産学官連携のPR活動を実施。

・新居浜高専技術振興協力会との連携による共同研究を実施(2件)。

・研究シーズ集を作成し、外部への情報発信に活用。

新居浜高専 創立50周年記念事業

新居浜工業高等専門学校は
平成24年4月に創立50周年
を迎えます

平成23年度運営諮問会議 （H24．1．19）

創立50周年記念事業実施体制

- 創立50周年記念事業実施本部
  - 創立50周年記念行事実行委員会
  - 創立50年誌編纂委員会
  - 創立50周年記念事業募金委員会

記念行事

平成23年度

○記念講演会
　平成23年12月10日（土）
　講師：佐治 晴夫 氏（鈴鹿短期大学学長）
　講演題目：
　　“心”と「いのち」の万華鏡
　　― 現代宇宙論から人間を考える ―
　場所：視聴覚教室

平成24年度

○記念式典
　平成24年4月21日（土） 10:00～
　・記念講演会
　　講師： 喜多川 泰 氏 （作家/学習塾「聡明舎」代表）
　・学生企画イベント
　・同窓会企画イベント
　場所：新居浜市市民文化センター

○記念碑除幕式
　平成24年4月21日（土）

○あかがね工業博2012
　平成24年10月6日（土）～7日（日）
　場所：新居浜高専
　　・開会セレモニー
　　・企業展示ブース、プレゼンテーション
　　・ものづくり体験コーナー
　　・アミューズメントコーナー
　　・おもしろ宇宙授業　 など
　主催：あかがね工業博実行委員会

○ホームカミングデイ
　平成24年11月3日（土）～4日（日） 国領祭

○ものづくりコンテスト
　対象：市内小中学生

記念事業

○募金事業（学校及び同窓会）
○50年誌編纂
○校内緑地整備
○教育研究及び国際交流基金創設
○看板設置
　平成23年3月　専攻科棟に設置

【柳澤議長】

休憩後の議題4から7の議題について、委員の方からご質問ご意見があればお願いしたいと思います。どなたからでも、よろしくお願いします。

【渋谷委員】

二つほどお伺いしたいと思います。まず、校長裁量経費ですが、470万ということで全体の予算から見ればかなり大きな予算になっておりますが、こういうのは、配分の仕方によって非常に生きてくる場合と、不満の元になったりするもので大変難しいと私自身は思っているのですが、校長先生の場合、例えば配分に関するブレーン組織をつくるとか、そういうことも一つの考え方だと思いますが、配分方法についてポリシーをお伺いしたいと思います。

もう一つは、ご説明の中でありました、共同研究、受託研究、ＪＳＴといった外部資金の件数がどんどん下がってきているということですが、これは、下がることだけを考えますと、これだけの下がり方というのは大問題ですが、大学の場合はそうなのですが、大学と高専とは、自ずと目指すところが違うわけでありまして、科研費を含めまして外部資金の獲得に向けた取り組み方については、一つのポリシーが必要かと思います。この共同研究、受託研究、科研費とかを含めて、この件数を上げるひとつの方法としては、大学としては知的財産本部というものを作ると、非常に効果的ですが、これには人材もたくさん必要ですしお金もかかります。高専の場合、組織としての取組みが必要なのかどうか、私には分かりにくいところがありますが、新居浜高専の場合、知財を取り組む本部的、組織的な取り組みをされているのかどうかをお伺いしたい。

【鈴木校長】

予算配分についてでございますけれども、52ページ管理運営に関する事項の下の欄ですが、おっしゃるように、校長裁量経費というのは、主に学内競争

的資金の活用にまず使わせていただいています。これは、公募型というか、こういう研究をしたいというもの、あるいはこういう教育推進したいというものを公募しまして、それについて、面接をして評価しております。今のところ、応募件数と申請額が丁度同じぐらいになっておりますので、ほぼ予定、希望どおり配分できております。

【渋谷委員】

面接なんかは、先生お一人でやられているのですか？

【鈴木校長】

いえ、事務職員陪席のもとに、1人1人行っております。これはかなり時間をかけてやっておりますので、どういう研究をされているか、どのような成果があがるかというのをある程度把握できます。以上の点からも、応募された人で、全部落とされるということがないため、不満が出ているという状況ではございません。

それから、校長裁量経費の下の470万というのは、非常に多いように思いますけども、講演会であるとか、いろんなものに執行しております。これらは学校全体で活用しているため、配分に対しても不満が出ているという話は聞いておりません。

【中山高度技術教育研究センター長】

それではご指摘受けました、一つが共同研究とか受託研究の契約金額が下がっている原因や、ＪＳＴの採択件数が低いという件と、もう一つは、知的財産本部みたいな組織を設置できているのかという二点についてお答えします。

一点目の外部資金獲得金額等が下がっている原因というのは、まだよく分かってないというのが本音です。取り組みとしては、高専というのは大学とは少

し違う所があると思いますが、研究だけに限って、全員がどうとかいう問題よりも、まず引っ張っていける人たちでグループを作って動いたらどうだろうということで、研究推進グループみたいな形の動きはしております。どこが中心となって活動しているかと言うことなのですが、私が今所属しております高度技術教育研究センター「高技センター」と言いますが、このセンターは、研究設備のエリアと研究用の装置等を持っております。数代前の事務部長でかなりこの辺りの利用方法について厳しい方がおり、そういったエリア等を使う場合は、きちんと外部からお金を取ってきている人でないとダメだとかっていうことをかなり言われました。外部からお金を取ってくるということは、全教員ができることではないので、その時に外部資金を取ってきた教員と、科研費は当然として、その他にも年間数件の外部資金獲得に向けて申請を行わないと、そのエリアや装置等は原則使用できないという形にし、その原則に沿った高技センターテーマを申請してもらい、審査後に使用の許可を出すやり方にしました。やり方が良いか悪いかは分からないですが、そういったエリア等を使用して研究をどんどんしようという人に、外部資金を獲得する努力をしてくださいという形で、ここ 5 年くらい活動しております。人数的な点がちょっと問題なのですけど、人数的には 20 人を切ったくらいの人しか参加できてないというのが現状ではあります。動きとしては一つそういうことをやっております。

それと、知的財産本部というのが設置できているのかという話ですけど、そういうものはありませんで、私どもの学校で知的財産に関係するものは知的財産委員会というのがありますが、これはさきほどあげました高専機構に知財として認めて欲しいという発明等届を審査するのみの委員会です。ということで、これも数年前から動きをしておりますが、先程言いましたように、二年前に 11 件特許の申請を認めてくださいと言うことを機構に申請したとき、これも知財推進グループのようなかたちで数名集まって一年間に 10 件くらいは発明等届を申請しようということで動きをしてみました。ただし、やはりこれも教員の

数も少ないため、そこまでやると1部の人にものすごく負荷がかかってしまって結局 1～2 年で息切れしております。今後、少し見直しはしないといけないと考えており、動きはしておりますがきちっとしたものが整っているかというと、整っていないというのが現状です。

【渋谷委員】

整っていることが高専にとって良いこととであるとは、私も必ずしも思いませんが、委員会組織でやっておられることはかなりの取り組みであると感じました。この知財は専門的に見てもかなり難しい分野ですので、専門家の協力を仰ぐということも必要な事かと思います。

【柳澤議長】

はい、他はいかがでしょうか。

【小野委員】

これはお願いと言うことになるかと思うのですが、インターンシップに関して 34 ページに書かれておりますけども、昨年もこの会議で申し上げたと思いますが、新居浜市ものづくり産業振興センターが去年の11月に完成しまして、いろいろと講習が開始されております。副市長さんもおられますけど、非常に新居浜市にご尽力いただきまして、施設的にはすばらしい施設だと思っております。ぜひこういった施設、もしインターシップをやられるのであれば、こういった施設を活用し、実際の製造現場を体験していただくことによって、地元の企業のことも良く知っていただけると思いますし、また地元企業への就職にも繋げていただければと思います。それで、その振興センターですが、この 45 ページにも書いてありますように、いわゆる共同研究とか受託研究なども書かれていますが、ものづくり産業振興センターはインターシップのみならず、共

同研究や新技術の開発とかも含まれている施設であります。ぜひこういった施設を利用していただいて地元の企業のニーズといいますか、どういった点で困っているとか、そういったこともひとつの研究テーマになるかと思います。そういった意味でぜひこの施設を使っていただいて、あるいは相談相手につきましては、新居浜商工会議所はもちろんですが新居浜機械産業共同組合とか一般社団法人新居浜ものづくり人材育成協会のほうがありますので、そういうところへお問い合わせいただきまして、先生方にもぜひその施設を有効的に活用してほしいし、やっぱり産学共同研究という方向付けにも繋がっていくんではないかと思います。隣には日本溶接協会の四国地区溶接技術検定委員会というのがありますし、そういった溶接技術、レンプラントとかいろいろそれについての共同研究とかに繋がるのではないかと思います。この施設につきましては愛媛大学の荒木先生にご指導いただきましてやっておるところです。

それと、新居浜高専における留学生の指導ということで、マレーシア、中国、ベトナムとか東南アジア中心に留学生を指導されているということですけど、これは卒業した後のフォローというか、これでもう終わりなのか、あるいは、後々のフォローはあるのか。もし新居浜の企業との関係というかフォローアップしていただければと思います。何を言いたいかといいますと、商工会議所でも今度シンガポール、マレーシアへの研修ということで出掛ける訳ですけど、そういった学生さんがおりましたら、現地での採用とか、あるいは交流とかも当然できるような形にできたらと思いますので、その辺りも少し考えていただけたらと思います。

それと最後ですけど、新居浜高専 50 周年記念事業でございますけども、記念事業実行委員会には我々新居浜商工会議所の職員も参加させていただきまして、これからも色々な協力関係を今後ともとっていきたいと思っております。新居浜商工会議所に、新居浜納涼花火大会とか 100 円商店街とか色々イベントに関するノウハウもございますので、お気軽にご相談していただければと思っ

ております。以上、よろしくお願いします。

【柳澤議長】

今の小野委員からの、盛りだくさんでしたが何か高専側で発言ございますか？

【鈴木校長】

新居浜市には、去年開設された新しい施設や溶接協会とか色々ございますので、できるだけそういう施設を積極的に使わせていただくという方向で検討させていただきたいと思います。それから、本校の留学生がどうなっているかということですが、だいたい他の大学に行って、それから母国に帰るというのが普通になっております。本校は特にマレーシアの学生が多くて、一応マレーシアに同窓会組織が細々とありますので、何かありましたらそこに連絡して協力させていただければと思っております。

【小野委員】

現実的に何かやっておられるんですか？

【谷口副校長】

実質的な活動はないですが、一昨年、森澤前校長と同窓会の前会長の前田会長がマレーシアに行きまして、同窓会のマレーシア支部というのを立ち上げようということで、何人か卒業生が集まり懇談をしました。また、同窓会としてもわずかですが資金的な援助もしましたが、実際その後なかなか現実的には動いていません。方々に散らばっておりますし、数として数十人ですからなかなか集まって活動するというのは現状では無いという状況です。もし、あちらのほう行かれて何か手助けできることございましたら、なんらかの連絡はとりた

いと思います。

それから記念行事の工業博ですが、本校と新居浜市、商工会議所、東予産業創造センター等のメンバーが中心となって色々計画しておりますのでよろしくお願いします。

【柳澤議長】

他はいかがでしょうか。

【北山委員】

最初に高専の方針として個性化というのがあげられたと思いますが、昨今、学力の低下といいますか、私もある大学のこういう委員をやっておりますが、先生方が学生の学力が非常に低下しているとのことで、算数もできない学生が大学に入ってきているということも言われているんですね。そういう意味で、教育の質の向上という意味で独自のカリキュラムといいますか、どのくらい自由度があるか分からないんですが、カリキュラムの工夫というのは何かやられていますか？

【西谷教務主事】

現在は特にこれというものはありません。ただ計算力等は落ちてきておりますので、4、5、6月くらいは丁寧に中学校の復習をしたり、夏休みには成績の悪い子には補習をしています。それからティーチングアシスタントによる補習も後期に実施しています。そういうようなことで対応しております。

【鈴木校長】

カリキュラムのことですけど、高専は全国に51の国立高専があり、それが1つの機構になっておりまして、それが個性をなくすとそれぞれの地域に対し

ていろいろな貢献ができないというのがあります。私も高専全体の機構の教育FD委員会における委員でありまして、いろいろなことを検討しております。その中で、例えば機械工学科だったら最低これだけは実施するコアカリキュラムというものの設定を、今、検討しています。学科によって最低これだけはやりましょう、例えばそのカリキュラムの半分程度は本当に必要な共通のもとし、あとの半分は各地域に根ざしたものとするというふうに、いろいろなカリキュラムを工夫してやりなさいというようなことで個性化というのを検討しています。それは本校だけでできることではなくて、機構全体で考えております。それからもう一つは、そういう個性化をいかに確保するかということと高度化ですね。高専も新しい技術に対してどういうふうに高度化していくのか、専攻科をどう充実させていくのか、どういうふうなあり方があるのか、そういうことも機構全体で考えてそれを各高専に発信して、個性化と高度化この二つを推進しようということを実施しております。

以上の様な状況で、コアカリキュラムというのをどうするかというのが議論になっております。本校内でも、各学科によって無い方がいいという意見もあります。ただ、高専という教育の質を保証する時にはこういうものは必ず実施しておかなくてはならないのではないかという議論もありますので、今まさにおっしゃられたご指摘は、高専全体の問題として検討していきたいと思います。

【柳澤議長】

他はいかがでしょうか。

【平田委員】

エンジニアとかはそういう技術が核になっていくと思うのですが、それだけを強調していくと個性も無くなってくと常々思っております。これからの技術者というのは、表現のできる技術者とか、社会を知る技術者とか、経営を知る

技術者とか、同じ技術者でもいろんなことができなきゃいけない。その時のベースになるのは何かなと、若い頃の何かなと考えると、本を読み込むことじゃないかと思います。この学校の図書館、その他を中心にした大きな活動、寮生も通学している学生もみんなが本を愛するというか、読書に親しむというかそういうことも非常に大事じゃないかと思いますので、提言しておきます。

【西谷教務主事】

ありがとうございました。なかなか本離れというのが進んでおりまして我々も苦労しているのですが、本校では、教員がこういう本が良いよという物を紹介する「ライブラリプレゼント」や、学生をつれて大きな本屋にいって、好きな本を選ばせて図書館に設置する「ブックハンティング」という取り組みを行っております。なかなか、どの程度効果があがっているかというのは、ちょっと心もとない気もしますが、今後とも続けていきたいと思っています。

【柳澤議長】

他はいかがでしょうか。

では私から。個性化という時にいろんな側面があると思いますが、こういう高等教育機関における個性化というときに、やっぱり一番は教員の研究内容ですよね、それで優れた研究を核にして個性というのは出てくると思います。私は委員になって3年目ですが、今回初めてこういう研究論文とか外部資金のデータとかを出してもらって認識を新たにしております。

それから先程、寮の問題で土日も出勤したりして多忙化というような問題も言われましたけど、その高専というもちろん大学とは異なるわけで、今回私の関心として、教員の研究をどういうふうに位置づけられているのか、あるいは今後の方向性として、どう各教員の研究をエンカレッジしていくのかという、その辺りのことについて伺えたらと思うのですが。

【鈴木校長】

おっしゃるとおり高専は大学とは違いますので、多分大学は研究が 6 とか 7 で、教育が 4 とか 3 で、多分高専ちょうど逆になっていると思います。高専は実践的な技術者を養成するための教育が必要ですし、寮の教育、インターンシップ等、外部での教育も重視しています。そういう意味で高専の先生の研究というのは、教育と研究の力は 7：3 くらいの状態でございます。しかし、研究の 3 というのは非常に重要で、研究を全くなくして本当の生きた教育はありませんので、そういう観点から 7：3 くらいで教育も研究もやっていただきたいと考えております。その点、大学とはやや違っておりますが、科研費の応募にしても教員が 80 人いたら少なくとも半分以上は申請していただきたいというふうに思っております。現状では 20 人くらいですので増やしていく工夫をしているところです。生きた教育をするためにも、教員には研究のことを常に心に留めていただきたいと考えております。

【柳澤議長】

今と関連して、教員の間の機能分化というか役割分担みたいなものはあってしかるべきと思いますが、先程出てきた高度技術教育研究センターですか、こういったところを中心に、研究面でアクティブな人をさらにエンカレッジするというような仕組みは大事だと思います。当然、全員がそういうあるレベル以上の研究活動をするのは高専の場合は大変だと思いますが、一部の方でもいいから国際的に通用する、さきほども事例は出ておりましたけども、そういうことができる環境を作っていくということが必要であると思いますので、そのあたりの工夫というのも、そのセンターを中心にやっていただければというふうに思います。

【鈴木校長】

校長裁量経費で公募して研究をしていただくことは正にそれでありまして、今後も工夫していきたいと思います。恐らく大学でもそうですけど、一部の先生方がものすごくやっていただいている、そういう状況です。教育に重点を置かれる先生と、研究にも重点を置き活動されている先生もおりますので、そこの柱は大切にしていきたいと思います。ありがとうございます。

【柳澤議長】

最後に鈴木校長から全体を通してなにかありましたら、一言ご挨拶お願いしたいと思います。

【鈴木校長】

本日は貴重なご意見を多数いただきまして誠にありがとうございました。大いに考えさせられるところがありまして、大変勉強になりました。今後の本校のあり方を考えるうえで、今日のご意見を参考にさせていただいて、さらに頑張っていきたいと思います。また、今後も本日お聞きしたご意見を検討していきたいと思いますが、その検討結果につきましても次回の本運営諮問会議において報告させていただきたいと考えてございます。また、この会議は年一回でございますので、この会議に限らず日常的で結構ですので、本校のあり方についてご意見を賜れば幸いでございます。幸い、ここにおられる委員の皆様には、日常的にお会いできることもありますので、気がついたことをどしどし言っていただき、本校の改善に努めていきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。本日は大変お忙しい中、本校の運営諮問会議にご出席賜りましてありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

【柳澤議長】

ありがとうございました。最後に私の方から一言だけ。去年この運営諮問会

議で、その後少し校長先生とかに私の方からこの会の運営の仕方について意見を申し上げました。今回かなり工夫していただいたというのがありますので少し報告しておきます。今回委員の方に事前に資料を配布されて、事前に目を通す余裕があったということも、議論を深めるために有効だったのではないかと思います。それから従来、各学科とかセンターとか別に報告されていたと思いますが、今回、年度計画にそって大枠的なとこから話しされたこと、そういう進行というのも随分工夫されたというふうに思います。そういうことについては、議長としては高専側に敬意を表したいと思います。今日は本当にどうもご協力いただきましてありがとうございました。

以上

平成23年度年度計画

	高専機構　年度計画（H23）	新居浜高専　年度計画（H23）
【1．教育に関する事項】 （1）入学者の確保（学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等）	（1）入学者の確保 ① 全日本中学校長会、地域における中学校長会などと連携を深め、国立高等専門学校への理解の促進を図るとともに、マスコミ等を通じ広く社会に向けて国立高等専門学校のPR活動を行う。 また、高等専門学校制度創設50周年に向けて、公私立の高等専門学校協会と連携し、各種広報活動を行う。 ② 各国立高等専門学校における入学説明会、体験入学（オープンキャンパス）、学校説明会等の取組について調査し、 その事例を各学校に周知するとともにその成果を分析する。 また、高等専門学校を卒業し産業界等で活躍する女性の情報等を盛り込んだ女子中学生向けのパンフレットの利活用を図る。 ③ 中学生及びその保護者を対象としたパンフレットについて、各学校での利活用状況調査等を行い，その結果を踏まえた広報資料を作成する。 ④ 高専教育にふさわしい人材を選抜できるよう、入試方法の改善方策について検討し、実施可能なものから随時導入する。 ⑤ 各学校・学科における学力水準の維持のための取組を調査し、その事例を各学校に周知する。 また、入学志願者に係る調査結果の分析を踏まえ、とりわけ入学志願者が減少している学校・学科においては入学志願者の確保方策について検討し、改善を行う。	○継続して実施する事項 ①中学校長会の新規理事校および校長が交代した理事校を校長・副校長が訪問し、教育・入試・進路等の概要を説明する。 ・創立50周年記念事業の実施や報道機関等をとおして、積極的に広報を行う。 ・イベントや研修会などの開催案内をホームページに掲載すると共に、ケーブルテレビや記者クラブに情報を発信する。 ・月1回メールマガジンを発行する。学校訪問やイベント等、機会がある毎にメールマガジンへの登録案内を行う。 ・広報推進本部の入試広報担当、イベント担当、広報誌企画担当、ホームページ運営担当、メールマガジン担当が中心となり、入学志願者数が前年度を上回るように、効率的な広報活動を行う。また、中学校の進路情報（動向）を得て、早期の対応を行う。 ②中学校長、進路指導主事等を対象に地区別学校説明会を開催する。パンフレットを活用し、女子中学生への広報に努める。 ③中学生向けの新居浜高専紹介冊子「はばたけ！未来へ」、学校紹介DVD、学校説明会用CDやイベントで配付するリーフレットに就職・進学に関する最新情報を掲載する。また、「はばたけ！未来へ」には卒業生や在校生の情報を載せる。 ④昨年度見直した入試方法について、その成果の分析を継続して行う。 ○新たに実施する事項 ②女子学生の就職先企業の新規開拓に努める。
（2）教育課程の編成（学科再編、大括り化・コース制の導入、専攻科の充実等）	（2）教育課程の編成等 ① 再編した宮城・富山・香川・熊本の4高専における教育・研究体制の高度化を着実に進めるとともに、その他の各学校においてもそれぞれの特色や地域事情を踏まえ、学科構成や新分野の学科設置の在り方、専攻科の整備・充実の具体化に向け検討する。 また、平成21年度に実施したカリキュラムに関する調査結果を踏まえ、高専に求められるニーズを踏まえたカリキュラム改革の在り方について引き続き検討を進める。 ② 地域や学生のニーズに応じた弾力的な学科編成とするため、学科の大括り化やコース制の導入について、その具体化に向け、検討する。 ③ 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」に関し、学生の学習到達度を測定するための各学校共通の「学習到達度試験」を実施する。また、その試験結果について公表を行う。「英語」については、各学校におけるTOEICの活用状況を調査し、その事例を各学校に周知する。 ④ 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価の調査を実施し、教員にフィードバックする。 また、卒業生アンケート（学校評価）を実施する。 ⑤ 学生の意欲向上や高等専門学校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校デザインコンペティション」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストを実施する。 ⑥ 各国立高等専門学校におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動への参加実績や取組状況を調査・分析し，各学校に周知することで，その実施を推進する。	○継続して実施する事項 ①社会の状況変化や地域性を考慮しながら、本校の将来構想を考える。 ②学科の大括り化やコース制の導入について検討する。 ③「学習到達度試験」の結果を教員会等を通じて報告し、FDに役立てる。 ・全学生が受験したTOEICの受験結果を参考に、英語力の向上を図る。 ④「勉学アンケート」および「授業アンケート」を継続し、その結果を分析し、学生および教員にフィードバックする。また、本科5年生および専攻科2年生の卒業・修了時に実施した学校評価アンケートの結果を、今後の教育改善に活かす。 ⑤機構が主催・共催するすべてのコンテストに参加するとともに、その他の高校生対象コンテスト等にも参加を推奨、支援する。また、学内の「ものづくりコンテスト」を開催する。 ⑥新居浜市や社会福祉協議会と連携し、ボランティア機会の周知、推奨を行う。 ○新たに実施する事項 ①再編した高専の実状について調査を行う。 ④機構が実施する卒業生アンケートに関して積極的に協力する。 ⑤ロボコン四国地区大会を主催する。また、出場が決定した第34回鳥人間コンテスト選手権大会への参加を支援する。 ⑥東日本大震災被災地へ車いす等の支援を行う。
（3）優れた教員の確保（採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD等）	（3）優れた教員の確保 ① 優れた教員を確保するため、各国立高等専門学校の教員の選考方法及び採用状況を踏まえ、国立高等専門学校における多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないようにする。 ② 長岡、豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・両技科大間教員交流制度」を実施する。 また、高等学校，大学，企業等との任期を付した人事交流を行うための方策について検討する。 ③ 各国立高等専門学校に対して、専門科目（理系の一般科目を含む）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用の促進を図り、専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%をそれぞれ下回らないようにする。 ④ 男女共同参画社会の実現及び女性研究者の活躍推進の観点から、女性教員の積極的な登用のための環境整備を進める。 ⑤ 教員の能力向上を目的とした各種研修会を企画・開催するとともに、全国高専教育フォーラム等で一般科目、専門科目の各領域ごとの高専間の連携強化を図る。 また、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等への各学校の参加状況を把握し、派遣を推進する。 ⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。 ⑦ 60名以上の教員を国内外研究員として派遣するとともに，各国立高等専門学校において，教員の国内外の大学等での研究又は研修への参加を促進する。	○継続して実施する事項 ①教員の採用については、すべて公募形式で行っているが、更に選考委員会や人事委員会において、優れた教員確保に努める。 ・新規採用教員に対するFD体制を充実させる。 ②「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。 ③優れた教員を採用するため、教員採用の公募において、公募条件等を精査する。 ④女性教職員からの意見を参考にしながら、環境整備の検討、改善を推進する。 ⑤機構が主催する研修会には、必ず1名以上が参加し、また、その結果については、教員会等で報告する。 ・教員の授業参観を、中学校・高等学校との間で相互に実施する。 ⑥機構の顕彰制度に加えて、学内顕彰も継続して実施する（優秀教員、優秀担任）。 ⑦常勤教員による授業措置等、国内外研究員として参加しやすい環境（支援体制）を充実させる。 ○新たに実施する事項 ①教員の採用に際し、高専教育に有用な種々の経歴を持つ人材にも留意する。 ④教職員の採用・昇任に際し、男女共同参画社会宣言を尊重する。

	高専機構　年度計画（H23）	新居浜高専　年度計画（H23）
（4）教育の質の向上・改善（自己点検評価、JABEE認定、共同教育、企業人材の活用　等）	（4）教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 高等専門学校の特性を活かした教材や教育方法の開発を推進するとともに、開発した教材や教育方法をデータベース化し、各学校において利活用を推進する。 ② JABEE認定プログラムの更新・拡充を図るとともに、教育の質の向上に努める。 また、在学中の資格取得について調査し、各学校に周知する。 ③ サマースクールや国内留学等の学校の枠を超えた学生の交流活動を促進するため，特色ある取組を各学校に周知するとともに支援を行う。 ④ 各国立高等専門学校の優れた教育実践例や取組事例を、総合データーベース「KOALA」を活用して収集・公表し、各学校における教育方法の改善を促進する。 ⑤ 大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を計画的に進める。 また、各高専の教育の質を保つために、評価結果及び改善の取組事例について総合データベース「KOALA」で共有する。 ⑥ 各国立高等専門学校におけるインターンシップへの取り組みを推進するとともに、産学官の連携による効果的なインターンシップの実施を推進する。 また、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、各学校の教員を中心とする検討部会において、「共同教育」の標準例等教育方法の充実方策について検討を進めるとともに、取組事例を取りまとめ、周知する。 ⑦ 退職技術者等を活用した教育の現状について調査を行い、特色ある事例について各学校に紹介するとともに、総合データベース「KOALA」で、各学校における退職技術者等の人材情報の共有化を推進する。 ⑧ 技術科学大学を始めとする理工系大学との協議の場を設け、教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育などについて連携して推進する。 ⑨ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門部会において、メディア教材の普及を図り、各学校での利活用を促進する。 また、各学校の校内LANなどの必要な情報基盤について、スケールメリットを活かした一括調達手法の導入を含め、戦略的かつ計画的に整備を進める。	○継続して実施する事項 ①開発した教材や教育方法については、教員会で紹介すると共に、教科別FD研修会（四国地区高専）での発表や「高専教育」等への投稿を推奨する。 ・WebClass（自学・自習）やアルク教材（授業、自学自習）の有効活用を図る。 ・科目間調整連絡会を継続し、専門基礎科目と専門科目の一層の連携を図る。 ③四国地区高専間の学生会交流や全国高専交流会に参加する。 ・特色ある教育方法等の情報を、機会ある毎に、メール等により学内に周知する。 ⑤機関別認証評価の結果を踏まえて、より一層、種々の改善に取り組む。 ⑥本科４年生および専攻科１年生全員がインターンシップを実施できるよう支援する。 ・新居浜工業高等専門学校技術振興協力会「愛テクフォーラム」に登録されている企業と連携して、現職企業人による講義（経営工学）の充実を図る。また、他のCOOP教育についても実施する。 ・愛媛大学との包括協定により、非常勤講師の推薦（斡旋）やインターンシップ、ものづくりフェスタの開催などを実施する。 ⑦新居浜出身の大手企業退職者に非常勤講師として講義を担当してもらう。 ○新たに実施する事項 ②昨年度のJABEE継続審査において指摘された点への改善に取り組む。 ④総合データベース「KOALA」で公表された教育実践例や取組例を参考にして、教育方法の改善を促進する。 ⑥昨年度設置した、「愛テクフォーラム」学生会員制度の充実を図る。
（5）学生支援・生活支援（メンタルヘルス、生活支援、キャリア教育　等）	（5）学生支援・生活支援等 ① 各国立高等専門学校の教職員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を開催するとともに、「学生支援・課外活動委員会」において、各学校のニーズや経済情勢等を踏まえた学生に対する就学支援・生活支援を推進する。 ② 各学校の図書館及び寄宿舎の施設の実態調査とニーズ調査の結果を踏まえ策定した整備計画及び平成23年度整備方針に基づき、整備を推進する。 また、女子学生の志願者確保に向けて、女子寄宿舎等の整備を推進する。 ③ 各国立高等専門学校に対して各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、高専機構HPに高専生を対象とした奨学団体への情報を掲示する。 また、奨学金について、産業界から支援を得るための方策を検討する。 ④ 各国立高等専門学校における企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を調査し、各学校における取組状況を把握し、その事例を各学校に周知する。	○継続して実施する事項 ①メンタルヘルスに関する講習会には、必ず1名以上が参加し、教員会等で報告し周知を図る。 ・メンタルヘルスに関する教職員向けの学内研修会を開催する。 ②学生の図書館利用を推進する。（新入生への図書館利用案内、学生によるブックハンティング、クラス別利用状況の公開と表彰、読書感想文表彰など） ③各種奨学金制度（財団法人三浦教育振興財団、財団法人中西奨学会、愛媛県奨学生、公益信託武智義加ものづくり奨学基金、財団法人関育英奨学会など）については、教室への掲示や担任等を通じて、学生への周知（案内）を行う。 ④キャリア教育を推進するため、新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」を中心とした学生と地域産業界との情報交換の場を設ける。 ・校内に設置している「キャリア教育プラザ」の有効利用を図る。 ・企業説明会を継続して開催する。 ○新たに実施する事項 ①特別支援教育推進室を設置する。
（6）教育環境の整備・活用（施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備　等）	（6）教育環境の整備・活用 ① 機構全体の視点に立った施設マネジメントの充実を図るとともに、施設・設備についての実態調査を基礎として、施設管理に係るコストを把握し策定した整備計画に基づき、メンテナンスを実施するとともに、実験・実習設備等の老朽化等の状況を確認し、その改善整備を推進する。また、モデル校によるコスト縮減状況のフォローアップを行う。 ② 産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全で快適な教育環境及び環境に配慮した施設の充実を図るため、施設の老朽度・狭隘化、耐震性、ユニバーサルデザインの導入状況等の実態を調査・分析するとともに、その結果を踏まえて策定した整備計画に基づき、整備を推進する。 また、平成22年度に策定した省エネ化対策方針に基づき省エネ化を推進する。 ③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	○継続して実施する事項 ①施設・設備の利用率調査を計画的に実施し、より有効な活用法を検討する。 ・実験施設の安全面等の調査を引き続き行うとともに、地震だけではなく大規模災害等を踏まえ作成したマニュアルの周知徹底を図る。 ②各実験科目のガイダンス時（初回実験時）に、安全教育を実施する。 ・学生の校内環境に対する意識調査を実施する。 ③本校の安全マニュアル（学生版、教職員版）を配布し、有効活用する。 ○新たに実施する事項 ①老朽化した実習工場等についての予算要求を行う。 ②クラブハウスを新設する。また、寄宿舎における空調のための電源設備を整備する。

	高専機構　年度計画（H23）	新居浜高専　年度計画（H23）
【2．研究に関する事項（外部資金獲得、産学連携、知財管理　等）】	2　研究に関する事項 ①　全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等の開催により、各国立高等専門学校における研究成果を発信する機会を設ける。また、各学校での科学研究費補助金等の外部資金獲得に関する調査を実施し、好事例の共有と活用を図る。 ②　研究成果を発表する各種機会を活用し、国立高等専門学校の研究成果について広く社会に公表するとともに「高専ー技科大技術マッチングシステムーKNTnetー」、産学官連携コーディネーター等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。 ③　長岡・豊橋両技科大との連携のもとで設置された「スーパー地域産学連携本部」の活用により、各国立高等専門学校の研究成果の円滑な知的資産化を促進するとともに、資産化された知的財産を有効かつ効率的に活用するため、知的財産管理のシステム化を推進する。	○継続して実施する事項 ①教員会において科学研究費補助金等の申請の説明および推奨を行う。 ②年間業績報告書を作成する。 ・新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」と連携して企業との共同研究を推進する。 ③本校の高度技術教育研究センターが中心となって、研究成果の発表を推奨する。 ・高度技術教育研究センターが中心となって、教員の研究を支援（奨励）し、その研究成果の知的財産化を推進する。
【3．社会との連携、国際交流等に関する事項（地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入 等）】	3　社会との連携、国際交流等に関する事項 ①「地域共同テクノセンター」などの効果的な整備を促進するとともに、地域社会との連携の中心として機能するよう、利用状況等について調査を行い、各学校に分析結果を周知する。 ②「高専ー技科大技術マッチングシステムーKNTnetー」や産学官連携コーディネーターを活用し、高専のもつ技術シーズを地域社会に広く紹介するとともに、各国立高等専門学校における教員の研究分野や共同研究・受託研究等の成果などの情報の広報活動について調査し、その事例を各学校に周知する。 ③　小中学校と連携した理科教育等の取り組みの実施状況について調査・分析し、結果を各学校に周知するとともに、特色ある取組については総合データベース「KOALA」を活用し各学校に紹介する。 ④　公開講座の参加者に対する満足度のアンケート調査を行うとともに、平成22年度の公開講座について満足度に関する傾向を分析し、各学校に分析結果を周知するとともに、特色ある取組およびコンテンツについては総合データベース「KOALA」を活用して各学校に紹介する。 ⑤　各国立高等専門学校の同窓会組織等との連携状況等を把握し、各学校へ周知することで卒業生とのネットワーク作りを推進し、活用するとともに、各学校単位で構成されている同窓会同士の連携を強化するため、平成21年度に立ち上げられた「全国高専同窓会連絡会」の活動を支援する。 ⑥　海外の教育機関との学術交流を推進し、学術交流協定に基づく交流活動を充実させるとともに，海外交流のなかで特に優れた取組については，各学校に周知し，国際交流活動の活性化を図る。 　特に、シンガポールのポリテクニック3校（平成21年度締結）及びタイのキングモンクット工科大学ラカバン（平成22年度締結）については、包括学術交流協定に基づく学生の長期・短期交流プログラムの実施について検討する。 　また、JICAを通じた海外への新たな技術協力の可能性について検討する。 ⑦　海外への留学を希望する学生を支援するため、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学奨学金パンフレットを各学校に配布し，学生の海外奨学金情報を充実させる。また、全国立高専を対象に派遣学生及び教職員を募集し、安全面に十分配慮した上で海外インターンシップを実施する。 ⑧　留学生の受入拡大のために「アジアの学生の高専体験プログラム」の実施及び全国国立高専による外国人学生対象の3年次編入学試験を共同で実施し、英文パンフレット、HPを活用して、日本学生支援機構（JASSO）が実施する「外国人留学生のための進学説明会」に参加する等の広報に努めるとともに、必要な環境整備や私費外国人留学生のための奨学金確保等の受入体制強化に向けた取組を推進する。 　また、全国共同利用施設として設置した留学生交流促進センターにおいて、留学生教育プログラムの企画を行うとともに留学生指導に関する研究会等を実施する。 　さらに、施設面においても留学生の受入拡大に向けた寄宿舎等の整備を推進する。 ⑨　各地区において、外国人留学生に対する研修旅行を企画し、実施する。	○継続して実施する事項 ①企業との共同研究を促進しつつ、新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」　の充実を図る。 ・地域で推進しているものづくり人材育成事業に積極的に参加する。 ②産学官連携コーディネーターを活用し、研究の活性化・促進を図る。 ・新居浜高専研究シーズ集、高度技術教育研究センター報の充実を図る。 ③企業と連携し、学生が講師役を務める出前授業を継続する。 ・小、中学校の理科・技術系教員を対象にした研修会を開催する。 ④各種イベント等においてもアンケートを実施する。 ⑤学園祭（国領祭）において、卒業生の集いの場を設ける。 ・本科1，2年生を対象にした「卒業生講話」を継続して実施する。 ⑥国際交流推進室が中心となって、一層の留学生指導を行うとともに、機構が開催する研究会に参加する。 ・学術交流協定校のサザンクロス大学（オーストラリア）での海外研修を引き続き実施する。 ⑦学生、教員とも海外インターンシップへの参加を推奨する。 ⑧外国人対象の3年次編入学試験による学生の受け入れに協力する。 ⑨留学生の研修旅行を実施する。 ○新たに実施する事項 ②インキュベーションラボラトリーの充実を図る。 ⑤同窓会と連携して、創立50周年記念事業を企画・立案する。 ⑥サザンクロス大学からの訪問学生およびノボシビルスク市（ロシア）からの青少年派遣団との交流を行う。
【4．管理運営に関する事項（危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流　等）】	4 管理運営に関する事項 ①ー1　機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ①ー2　機構にリスク管理本部を設置するなど、内部統制の充実・強化を図る。 ②　各地区校長会などにおいて学校の管理運営の在り方について検討を進めるとともに、新任校長を対象とした学校の管理運営に関する「新任校長研修会」、主事クラスを対象とした学校運営、教育課題等に関する教員研修「管理職研修」を実施する。 ③　前期間中に実施した一元化業務の機構本部・高専間の業務分担及び事務処理方法の見直し、検討を行う。また、作成した「事務マニュアル」について、その内容の充実を図る。 　また、IT資産管理システムにより、ソフトウェア管理を適正かつ効率的に行う。 ④　事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を計画的に実施するとともに、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会に参加させる。 　また、職務に関して、特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員の表彰制度の具体化を図る。 ⑤　事務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校間などの人事交流を積極的に推進する。	○継続して実施する事項 ①ー1機構が行う調査に積極的に協力し、得られた情報の学内周知や有効活用に努める。 ②四国地区校長会において、管理運営に関する情報を交換しながら、その在り方について検討する。 ・該当の研修会には参加する。 ③事務の効率化・合理化を図るため，本校の「事務マニュアル（案）」「業務手順書（案）」について引き続き検討する。 ④該当の研修会には参加する。 ・愛媛大学工学部主催の「工学部等技術部技術発表会」など各種研修会に参加する。 ⑤愛媛大学との人事交流を引き続き、計画的に行う。 ⑥継続して運営諮問会議（外部評価）における学外委員との意見交換の場を設定し、新居浜高専全般に係る意見を聴取する。 ○新たに実施する事項 ①ー2危機管理体制を整備するとともに、リスク管理室を設置する。

	高専機構　年度計画(H23)	新居浜高専　年度計画(H23)
【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し　等)】	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%，その他は1%の業務の効率化を図る。 また、各国立高等専門学校がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう経費の戦略的かつ計画的な配分を行うとともに、随意契約の見直しを行う。 Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画。) 1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現 共同研究，受託研究，奨学寄附金，科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み，自己収入の増加を図る。 Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 施設・設備等の実態調査を踏まえて策定した整備計画に基づき、教育研究の推進や福利厚生の改善のための整備を推進する。 また、平成22年度に策定した省エネ化対策方針に基づき省エネ化を推進する。 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。 (2)人員に関する計画 常勤職員について、その職務能力を向上させるとともに、全体として効率化を図り、常勤職員の抑制をしつつ、国立高等専門学校の配置や学科構成並びに専攻科の在り方の見直しなどの高度化・再編・整備の方策の検討に応じて教職員配置の見直しを行う。	○継続して実施する事項 ①機構が発信する情報に基づき、業務の効率化を検討、推進し、目標達成を目指す。 ②外部資金の獲得を促進する。 ③業務の外部委託化、業務、事務の合理化、簡素化、契約方法の見直し及び運営経費の縮減に努める。 ④平成23年度の計画に基づき、施設設備改修等を行う。 ⑤施設有効利用の促進を図る。 ⑥新任教職員を対象に、校長、部長、主事、学科主任がそれぞれ「新任者研修」を行う。 ⑦本校の将来構想に基づき、業務運営の効率化を推進しながら、人員の適正配置を検討する。
【6. その他】	5 その他 平成22年4月より学生受入れを開始した仙台高等専門学校，富山高等専門学校，香川高等専門学校，熊本高等専門学校については，学年進行にあわせた施設・設備の整備計画に基づき整備を推進するとともに、教職員の配置を適切に計画する。	5 その他 ①50周年記念事業に向け、鋭意取り組む。 ②三高専(阿南、高知、新居浜)連携による合同事業を検討・推進する。

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議報告書

平成 24 年 3 月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580　愛媛県新居浜市八雲町 7 番 1 号

ＴＥＬ：（０８９７）－３７－７７００

ＦＡＸ：（０８９７）－３７－７８４２

ＵＲＬ：http://www.niihama-nct.ac.jp/